

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ]

(A①:CAプラス)

1. 大学名 (○が代表申請大学)	大阪大学			
2. 機関番号	代表申請大学	14401		
3. 主たる交流先の相手国	中国、韓国、タイ王国			
4. 事業者 (大学の設置者)	ふりがな (氏名)	にしお しょうじろう 西尾 章治郎	(所属・職名) 学長	
5. 申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	にしお しょうじろう 西尾 章治郎		
6. 事業責任者	ふりがな (氏名)	かない よしかつ 金井 好克	(所属・職名) 大学院医学系研究科・教授	
7. 事業名	【和文】 グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成			
	【英文】 Nurturing of medical and public health research leaders to solve health problems in global societies			
8. 取組学部・研究科等名 (必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)	学問分野	<input type="radio"/> 人社会系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input checked="" type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他		
	実施対象 (学部・大学院)	<input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院		
大阪大学 [医学部医学科・大学院医学系研究科、 医学部保健学科・大学院医学系研究科保健学専攻、微生物病研究所]				

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中国	北京大学	Peking University	Health Science Center
2	中国	清華大学	Tsinghua University	School of Life Sciences, Vanke School of Public Health, School of Medicine
3	中国	上海交通大学	Shanghai Jiao Tong University	School of Medicine
4	中国	天津中医薬大学	Tianjin University of Traditional Chinese Medicine	Tianjin University of Traditional Chinese Medicine
5	中国	広東薬科大学	Guangdong Pharmaceutical University	Guangdong Pharmaceutical University
6	韓国	延世大学校	Yonsei University	College of Medicine
7	タイ王国	マヒドン大学	Mahidol University	Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Faculty of Nursing
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	グローバルヘルス政策研究センター	4		
2			5		
3			6		

(大学名:大阪大学) (タイプ (A①:CAプラス))

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

- ・大阪大学 世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラムホームページ:
<http://www.pbhel.med.osaka-u.ac.jp/campusasia/>
- ・大阪大学ホームページ内「教育情報の公表」:
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement>
- ・国立国際医療研究センター、グローバルヘルス政策研究センター
<https://www.ncgm.go.jp/>
<http://www.ighp.ncgm.go.jp/index.html>

12. 本事業経費 (単位: 千円) ※千円未満は切り捨て

年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
事業規模 (総事業費)		25,400	24,220	22,798	21,518	20,366	114,302
内訳	補助金申請額	15,800	14,220	12,798	11,518	10,366	64,702
	大学負担額	9,600	10,000	10,000	10,000	10,000	49,600

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

(大学名: 大阪大学) (タイプ (A①): CAプラス)

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】現在の新型コロナウイルス感染症のパンデミックで代表されるように、グローバル社会における健康課題の解決は1国のみでは対応できず、国境や地域の垣根を超えた健康課題への対応の体制が必要である。そのため、世界的な健康課題の解決力と各国特有の課題に対応できる人材の育成が急務である。加えてアジア地域では少子高齢化の急激な進展に備え、老化関連疾患への対応が重要であることは論をまたない。

本プログラムでは、東アジアにおいて複雑化する健康課題の解決のため、グローバルヘルスの視点から健康課題の解決力を持つ人材の育成を目指す。健康課題解決に貢献できる世界的な研究者を育成し、最先端の研究知見を生みだし、あるいは活用できる人材育成を目指す。更に共通の課題解決のためのコミュニケーション力を持ち、課題解決の実行力とリーダーシップを発揮できる、グローバルヘルス・リーダーの育成を目標とする。そのために本プログラムでは、大阪大学大学院医学系研究科が中心となり、大阪大学の中長期的なビジョンである、グローバル社会におけるトップレベルの研究者と、地域社会で活躍できるリーダーの育成を目指し、中国の北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医药大学、韓国の延世大学校と共同して当事業を実施してきた。更に今年度以降は、感染症対策課題への取り組み、教育プログラムの充実のため、タイ王国のマヒドン大学、中国の広東薬科大学、大阪大学微生物病研究所、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、さらに国立国際医療研究センターが参画し、当該世界展開力事業をASEAN地域へも拡大して実施する。

複雑化する世界的健康問題に対する長期的かつ抜本的な解決のためには、医学・看護学の知識・技術の習得に加え、公衆衛生学における研究・実践のスキルを有する人材の育成と、健康課題の根本原因や解決の方法を解明するための、科学的なエビデンスの構築が不可欠である。加えて、大学内での人材育成のみではなく、大学を拠点とした産官学の協働による、人材育成の体制を構築することも必要とされる。感染症の対策や生活習慣病、認知症の予防や治療、老化メカニズムに関する基礎研究の推進には、若手研究者の組織的な育成が必須である。これら喫緊の課題に応える人材の育成と教育・研究機会を提供する。

交流プログラムの実施にあたっては、本邦初となる医学系研究科における、ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)を中心に、参加大学間における、単位の相互認定、評価基準の共有を国際教員会議における審議を経て整備し、質保証を伴った教育プログラム提供をASEAN諸国の新規加入大学にも拡大する。また、昨今の感染症の世界的な流行を考慮して、ポストコロナ、ウィズコロナ社会においても、実効性の高い国際交流プログラムを提供するために、実渡航・オンライン・ハイブリットのプログラムを有機的に組み合わせた事業を展開する。第2期キャンパス・アジア(CA)プログラムで蓄積したノウハウを活かし、学生の危機管理ならびに、心身のケアに配慮したサポート体制を拡充する。

【養成する人材像】本事業は、世界的健康問題である感染症、生活習慣病、認知症、老化関連疾患の予防・制御に関する研究をリードしている大阪大学と中国の5大学、韓国の1大学、タイ王国の1大学がキャンパス・アジア・コンソーシアムを構築し、これらの予防・医療の推進に貢献する医学・公衆衛生学の研究者を育成することを目的とする。特に東アジア、ASEAN諸国において日本・中国・韓国・タイ王国の4カ国は、本テーマに関して確固たる世界的研究基盤を有する国であり本コンソーシアムを形成する意義は大きい。

養成する研究者は、①短期・中期・長期の多層的交流プログラム、②博士課程大学院でのDDP、さらに③企業や研究所(国立国際医療研究センター等)、国際機関(WHO等)におけるインターンシップ等により、将来、自国の大学の教員にとどまらず、他国の参加大学やその他の研究大学の教員、各国の公的研究所や国内外の健康関連企業の研究者、国内の行政機関やWHO等の国際行政機関の構成員として活躍が期待される。特に、CA同窓会等を通じてグローバルなネットワークを構築し、東アジア諸国における健康問題の解決にあたることが期待される。東アジアでの健康問題の解決は、次いで少子高齢化が進むとされる中央アジアやアフリカ諸国においても応用でき、世界的な展開が見込まれる。

大阪大学は、生活習慣病、認知症の基礎・臨床・公衆衛生学研究において世界トップクラスの実績をあげている。日本における保健医療政策の展開による健康寿命の延伸の実績と、臨床、基礎、社会医学研究の実績により中国、韓国、タイ王国の7大学との連携は、アジア地域における健康施策、人材育成に大いに貢献できると考えられる。さらに、北京大学、清華大学を始めとする中国の5大学は大阪大学と同様、生活習慣病予防に関する基礎、臨床、社会医学研究、老化制御に関する基礎研究、新規漢方薬有効成分の探索研究等でトップクラスの研究実績がある。韓国の延世大学校は、国民総背番号制度の基に大規模な疫学研究とそれを進める上での研究倫理に関して研究実績で高い評価を得ている。さらにタイのマヒドン大学は感染症対策ならびに感染症疫学のメカニズム解明の分野において世界をリードしている。大阪大学では感染症国際研究拠点を有し、2005年から日本・タイ感染症共同研究センターを立ち上げ、新興・再興感染症制圧を目指したマヒドン大学との共同研究を展開している。これらの大学がコンソーシアムを組むことで、より充実した教育・研究の体制が実現すると期待される。

【本事業で計画している交流学生数】(各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位の取得の有無は問わない))

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
72	92	83	103	84	105	86	108	88	108

(単位:人)

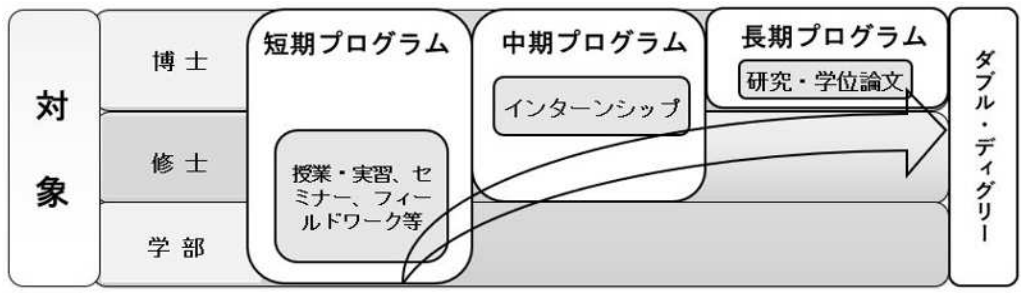
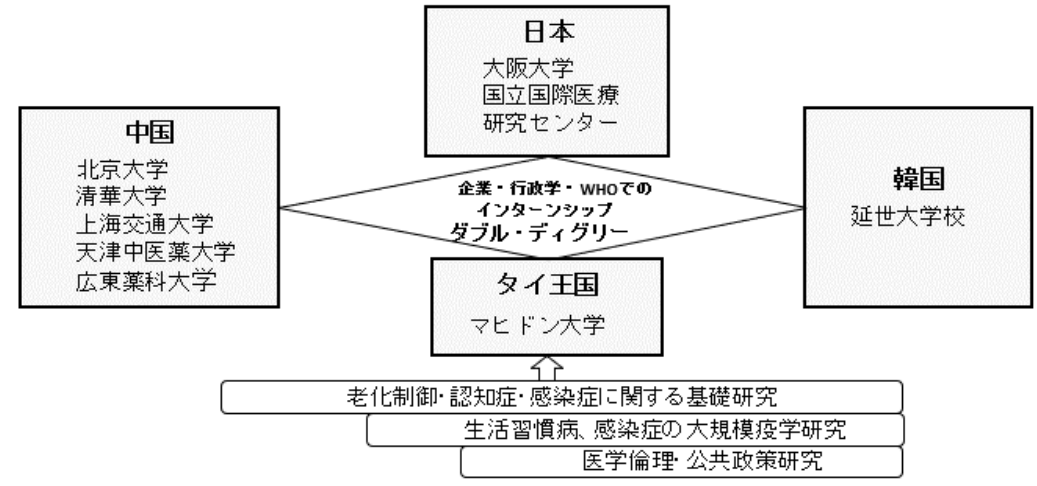
(大学名: 大阪大学) (タイプ A①: CAプラス)

② 事業の概念図 【1ページ以内】

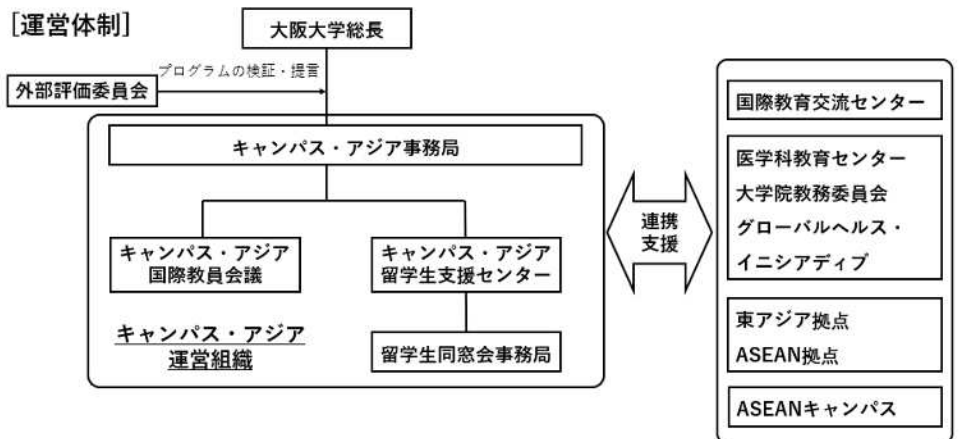
達成目標

わが国初の医学・公衆衛生分野におけるキャンパス・アジアのダブルディグリープログラムの安定運用
 世界的健康問題の解決に向けた医学、公衆衛生学研究リーダーの育成
 アジアにおける医学教育研究ネットワークの拡大

日中韓タイ王国の大学コンソーシアム (共通カリキュラム・単位互換・成績評価、修了書発行)

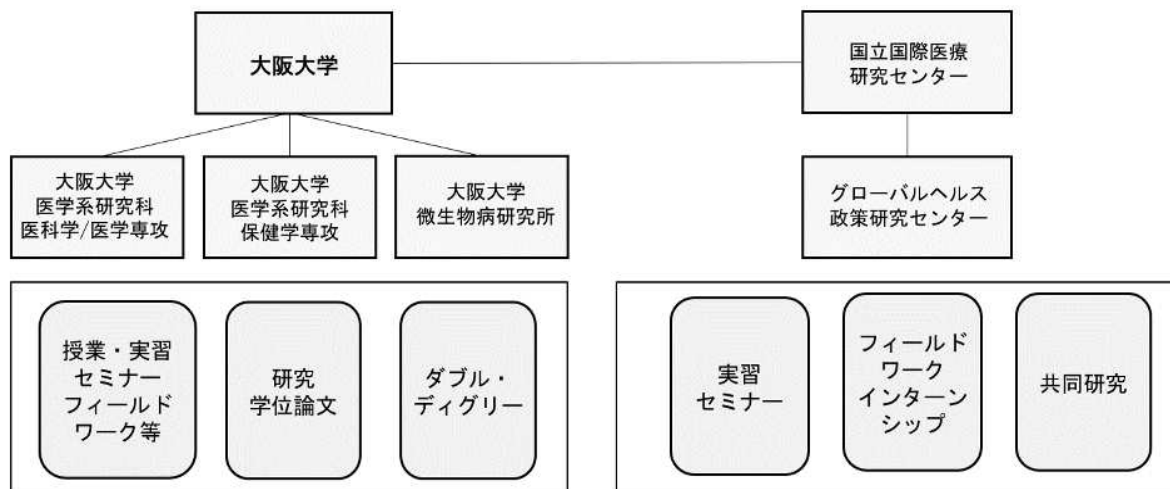


[運営体制]



(大学名：大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】



(大学名： 大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

④ 交流プログラムの内容 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

大阪大学は、大学の世界展開力強化事業「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」に2016年に採択され、日中韓3か国間での医学・公衆衛生学分野での交流プログラムとして、世界的な健康課題である生活習慣病、認知症、老化関連疾患の予防・治療に取り組み、その解決に貢献する世界的な研究者を育成することを目的として実施してきた。本コンソーシアムは、本邦初となる医学分野におけるダブル・ディグリー・プログラム(DDP)を設置し、実際の学生交流と単位互換、学生の研究指導を着実に遂行してきた。大阪大学の中長期的なビジョンである、グローバル社会におけるトップレベルの研究者と、地域社会で活躍できるリーダーの育成を目指し、これまで、中国の北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学、韓国の延世大学校と学術交流協定を締結し、学生交流・教育プログラムの展開とそれに付随する研究者・指導者の交流を実施してきた。大阪大学医学系研究科においては、臨床、基礎、社会医学の22の連携講座が参加し、学生交流と教育、研究を推進してきた。具体的には、大阪大学大学院医学系研究科の中で、公衆衛生学講座が中心となり、核医学、遺伝学、生体システム薬理学、医の倫理と公共政策学、統合生理学、放射線治療学、内分泌・代謝内科学、環境医学、麻酔・集中治療学、分子神経科学、病態病理学、免疫制御学、スポーツ医学、形成外科学、呼吸器・免疫内科学、免疫細胞生物学、医学統計学、精神医学、神経内科学の20基幹講座、肥満脂肪病態学、運動器バイオマテリアル学の2寄附講座、ならびに医学科教育センターが、協力講座として連携体制を組み、本プログラムを通じた日中韓の参加大学との学生交流や共同研究を進めてきた実績がある。

本プログラムは、キャンパス・アジア(CA)の基本的枠組みの中で短期・中期・長期の交流を進めているが、なかでも長期派遣・受入プログラムである、DDP制度の構築と運営の開始が最大の特長である。大阪大学大学院医学系研究科は北京大学、上海交通大学、天津中医薬大学、延世大学校とDD協定を締結し、2019年度よりDDPによる学生受入・派遣を開始した。DD候補学生は博士課程における4年間の履修期間の内、約2年間海外の大学において講義受講、実習、研究を行い、単位修得並びに論文発表等の研究成果の評価基準をクリアすることでそれぞれの大学での博士学位を取得できる。現在大阪大学にて北京大学の学生1名、延世大学校の学生1名を受入れ、大阪大学から北京大学へ1名、延世大学校へ1名の学生を派遣している。今年度以降のDDP入学希望者も、派遣・受入それぞれに応募があり、順次面談を行い、派遣・受入の準備手続きを進めている。

特に今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインによる海外大学の講義の受講を必要とした学生や、入国にあたり2週間ずつの隔離義務が生じた学生へも、心理的ケアと共に、宿舍や移動手段の手配に配慮し、常時とは異なる環境においても、安心して学習を進められる環境を確保した。基本的な学生・教員へのサポート体制として、大阪大学をはじめ日中韓の参加大学では、CA事務局を設置しており、次年度以降のプログラム実施にあたっては、安心安全な学習環境の確保と、学生個別のニーズに合わせた心身のケアを行う万全の体制を整えている。さらに、日中韓の参加大学の教員から構成される国際教員会議(プログラム推進協議会)を整備し、定期的な会議開催による情報交換と、学生への支援を行っている。大阪大学では、CA事務局において、教員とサポートスタッフが、協力講座と共同して、常時留学生、日本人学生、若手研究者、海外大学の招聘教員の交流と教育・研究・生活のサポートを個別のニーズに合わせて実施している。事務局では、教育研究支援機能と、生活サポート機能を備え、日本人学生が留学生や協定校の教員と交流する場所を提供している。その他、キャンパス・アジア・コンソーシアム大学(北京大学・清華大学・上海交通大学・天津中医薬大学・延世大学校)との、国際教員会議では、以下①～⑨の事業に関する審議と合意形成を行った。

- ① 世界的な健康課題の解決に関する英語授業・実習機会の確保
- ② ダブル・ディグリーを目指した博士課程大学院での交流・研究指導
- ③ 連携研究機関における実習・研究指導
- ④ 企業や国際行政機関等でのインターンシップ・プログラム
- ⑤ 交流プログラム実施マニュアルの策定
- ⑥ 内部質保証システムの構築・運用
- ⑦ 外部評価システムの構築・運用
- ⑧ 学習・生活支援
- ⑨ 国際的ネットワークの構築のための同窓会の設立

以下に、これまでの活動①～⑨に関して、具体的な活動内容と次期第3期プログラム(CAプラス)の実施に向けた準備状況を述べる。新しく参加する中国、タイ王国の大学についても、同様の活動を行う計画である。

①世界的な健康課題の解決に関する英語授業・実習機会の確保

大阪大学大学院医学系研究科では、これまでに医科学修士並びに博士課程において、英語による授業やセミナーの充実を進めてきた。2011年度より開始された博士課程のリーディングプログラムでは、すべての授業は英語で行い、英語によるセミナーの充実、英語による学会発表・質疑応答・英語論文の

(大学名：大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

書き方の科目を開設している。また、第2期のCAプログラムを通じて、世界的な健康課題の解決に関する講義を充実させ、日・中・韓3か国の学生と一緒に受講できる講義の体制を整えた。特に、北京大学、延世大学の教員を招聘教員として迎え、本学の教員が北京大学の招聘教員として講義や指導を行う体制により、英語による講義を3か国の教員により実施してきた。これにより、短期・中期の学生に向けた講義やセミナーの充実はもとより、長期滞在の学生のための研究指導體制が充実し、DDPにおける実質的な教育体制の質の保証につながっている。また、大阪大学医学部では2016年度より学部学生の医学英語教育の充実のため、専任のネイティブ教員を配置している。本プログラムで学生の受入先となる講座の指導教員はみな英語が堪能であり、学生は日本人学生と同じ条件で研究活動を行うことが出来る。一方で、日本語を学びたい留学生に対しては、国際教育交流センターでの日本語教育プログラムを活用して、留学生の日本語能力の向上を図っている。

②ダブル・ディグリーを目指した博士課程大学院での交流・研究指導

大阪大学大学院医学系研究科は北京大学、上海交通大学、天津中医薬大学、延世大学とDDP協定を締結し、DD取得のための体制を整備するとともに、入学から卒業までの学生支援体制を確立している。DD候補学生は博士課程における4年間の履修期間の内、約2年間海外の大学において授業・実習、研究を行い、単位修得並びに研究成果（原著論文）の評価基準を両大学でクリアすることでそれぞれの大学での博士学位を取得できる。2019年度より（DDPによる学生受入・派遣を開始し、現在大阪大学にて北京大学の学生1名、延世大学の学生1名を受入れ、大阪大学から北京大学へ1名、延世大学へ1名の学生を派遣している。在籍中のDD候補学生へは、博士学位取得のための研究指導並びに授業面・生活面でのサポートを行っている。DDPでは長期間にわたる学生の派遣受入にかかる継続的な指導やサポートが不可欠である。そのため、履修期間や学位取得期間に起こる危機対応も含めて、DD候補学生のサポートを行う体制づくりが不可欠である。現在は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の中でも、継続して講義受講と学位取得に向けた活動が出来るように、学生への個別の指導體制とオンライン受講や実習参加による単位取得や学位論文執筆にかかるサポートを、受入大学と連携して体制を構築して行っている。

③連携研究機関における実習・研究指導

大阪大学では、現在までに留学生の派遣・受入において、大阪大学微生物病研究所、大阪がん循環器病予防センター、大阪国際がんセンター、大阪重粒子線センター等の連携研究機関等における見学実習や研究指導の機会を拡充してきた。現在、次期のCAプラスへの準備として、大阪大学におけるサポート体制を拡充し、学生をより専門性の高い学内、外の連携研究機関に留学中の一定期間派遣し、実習や研究を実施する機会の確保を進めている。短期プログラムで留学した学生が、より専門的な教育や研究の機会を得るために、中期・長期留学を希望するケースが増えており、現在のDDP学生は、短期のCA留学プログラムの経験者である。

④企業や国際行政機関等でのインターンシップ・プログラム

大阪大学大学院医学系研究科は、56の製薬企業・医療機器企業等との寄附講座、共同研究講座を有している。また、WHO本部（ジュネーブ）、WHO神戸センターとは、生活習慣病対策、健康都市計画、健康の社会決定要因等のテーマで毎年インターン（3～6か月）を派遣しており、本事業においてその枠組みを活用している。北京大学はWHO協力拠点である中国CDC（疾病制御センター）、延世大学はWHO協力拠点国際ワクチン研究所、マヒドン大学はタイの感染症研究拠点と密接な教育研究連携を有し、インターンを受け入れている。

⑤交流プログラム実施マニュアルの策定

参加大学共通の交流プログラム実施マニュアル、共通書式を英語で作成・共有し、それぞれの言語でも作成した。その際、教員体制、交流形態、交流学生数、シラバスの作成、プログラムの周知手順、プログラムアセスメント、学生の選考手順、履修・研究実施の手順、学生の学修計画・学習記録のための様式、修了書の発行手順等の文章化を行った。成績評価に関しては参加大学共通の基準と様式を作成した。単位認定、単位互換は短期・中期・長期プログラムの一部の科目と、DDPで実施している。

⑥内部質保証システムの構築・運用

交流プログラムの自己評価と継続的な質向上のため内部保証システムを構築し、情報共有すると共に、参加学生からの意見聴取（評価シートとアンケート調査への回答、懇談会への参加による意見交換）を行ってきた。そして、学生からの評価結果と合わせて、各大学の受入担当教員によるレビューと自己評価を行い、国際教員会議において全大学から報告を行い、情報を共有している。国際教員会議は、各大学の責任教授と実施担当教員、国際交流担当職員らによって構成される。ホスト大学は持ち回りとして、毎年1回開催され、6大学から集めた参加学生、担当教員からのフィードバックをもとに1年間の活動に対する評価と、次年度以降の計画策定を行い、PDCAサイクルを回しながらプログラムを運営・実施してきた。また、各大学の単位取得にかかる成績評価に関しては、各大学の履修基準を遵守すると共に、CAプラスプログラムが提供する講義やプログラムの評価にあたっては、プログラム独自の書式を共有し、参加大学間で共通の基準と様式を用いた評価を行う。

⑦外部評価システムの構築・運用

大学、企業、行政機関等の人材から成る外部評価委員会（7名）を設置して、年1回開催し、CAプログラムの改善・充実を図っている。

（大学名：大阪大学 ） （タイプ A①：CAプラス）

⑧学習・生活支援

大阪大学医学部においては、医学科教育センターが設置されており、留学生を含めた学部学生の学習・支援を担当している。大学院医学系研究科に関しては、教務委員会、医学科教務係、各受入研究室が大学院留学生の学習・生活支援を担当している。本事業では学生支援のためのサポートセンター（特任准教授1名、特任助教1名、事務職員4名）を設置するとともに、日本人学生の留学生サポーター（チューター）を選定して、上記の組織と協働できめの細かい支援やカウンセリングを行っている。大阪大学で受け入れる学生には、学内の宿舎もしくは大学周辺の宿舎を手配している。他の参加大学においても、各大学の留学生サポートセンターが学習・生活支援にあたり、安全・安心な学習環境の確保をしている。各参加大学において、本プログラムのHP（日本語、英語並びに各大学の母国語）も開設され、プログラムについての情報発信を定期的に行っている。生活面においては、渡航費の支給、宿舎の手配、奨学金受給の支援、日常生活での困りごとに関する相談等の受付をキャンパス・アジア事務局にて行い、全面的に学生をサポートしている。CA事務局には英語・中国語が堪能な特任准教授と特任助教が各1名と、英語・中国語等でコミュニケーションをとることが可能な事務補佐員が在籍しており、日々の講義における履修のサポート、研究・論文執筆に関する指導を、受入教室と連携して行っている。また、学生の受け入れ先となる研究室の教員も英語で研究指導を行っている。これにより、海外大学から受け入れるDD候補学生が、言語による不自由を感じることなく、学習・研究に関するサポートを受けることが可能となっている。また、海外の参加大学においても、それぞれキャンパス・アジア事務局に相当する機関が設けられ、国際交流の経験が豊富で、語学が堪能な職員が配置されているため、日本からの派遣学生も同様にサポートを受けることが出来ている。2021年度以降のDDP入学希望者も、現時点で派遣・受入それぞれに応募があり、受入希望教室の教員並びにCA事務局と個別面談を行い、派遣・受入を安心して進められる体制を確保している。

⑨国際的ネットワークの構築のための同窓会の設立

第2期CAプログラムにおいて留学経験者で組織された同窓会を設置し、年1回の同窓会総会において留学経験者たちによる研究発表やディスカッションを行う場を設け、国際的な人的ネットワークの基盤づくりを行っている。

年1回の同窓会総会と、国際シンポジウムの時期を同時期に開催することで、留学経験者らが各大学のトップクラスの研究者の講演と自身の研究発表に対して、各大学の教員からのフィードバックを受ける貴重な機会となっている。優秀発表者には、参加証に合わせてAwardを授与するシステムを取っており、留学経験者らの経験の共有と共に、プログラム参加へのモチベーションを高めることに役立っている。現在の同窓会長は、CAプログラムの経験者である特任助教が務めている。

第2期のCAプログラムの実績として、大阪大学総長より、本事業責任者教授が大阪大学賞を受賞しており、学内の事業評価としてもSSと最高の評価を得た。本継続事業推進のため、本学グローバル連携担当協力の了承を得ており、学内の複数機関（医学系研究科保健学専攻、微生物病研究所）からの協力の申し出を受けた。学内での協力体制並びに中国・韓国・タイ王国の参加大学（新規参加大学も含む）で学生・研究事業交流のカウンターパートとなる教授・研究者と密に連絡をとり、Web等も活用した打ち合わせを行っている。さらに、国内の国立研究機関においても協力体制の内諾を得ている。具体的には、本事業継続と拡大（国立国際医療研究センター、中国広東薬科大学、タイ王国マヒドン大学の新規加入）の同意を得ており、中国の5大学、韓国の1大学、タイの1大学とコンソーシアムを組む準備は整っている。

【計画内容】**(i) 実渡航による交流**

- ・短期留学プログラム（1か月）の内容：
オリエンテーション、英語での講義受講、e-learning 受講、研究セミナー受講、研究教室訪問・討論、研究プロジェクト立案、演習、フィールド実習、留学成果発表会、コース受講(単位認定)
- ・中期留学プログラム（3～6か月）の内容：短期留学プログラムに加えて、
研究プロジェクト参加、研究発表・討論、国際学会への参加、国際学会の発表、インターンシップ（企業、行政機関）
- ・長期留学プログラム（1～2年）の内容：中期留学プログラムに加えて、
研究・共同研究の実施、研究論文の作成、国際学会での発表、インターンシップ（企業、行政機関）、ダブル・ディグリートラック（医学科：大阪大学2年間＋海外の大学2年間、保健学科：大阪大学1.5年間＋マヒドン大学1.5年間）

(ii) オンライン交流

新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、プログラム開始初年度は、中期・長期の実渡航プログラムと合わせて、短期留学を中心にオンライン交流を積極的に活用する。オンラインによるプログラム提供として、夏・秋・冬に1度ずつ、参加大学の学生が英語による講義の受講と実習としてのグループワーク・プロジェクトに参加する。グループワーク・プロジェクトでは、講義内容を踏まえた上で、健康課題の解決を目指したテーマを、各グループごとに設定し、研究計画を策定する。そして、各グループは合同発表会において、プレゼンテーションとディスカッションを行う。各グループの計画策定にあたって必要となる学習・研究指導と、チュートリアルには、教員と各大学の招へい教員も参加する。学生は、グループ内でのディスカッションと、具体的な研究計画策定を見据えたグループワークを日中韓及びタイ王国の学生で混成されたグループで行う。各グループごとの研究報告には、参加大学の教員が、研究内容へのフィードバックとコメントを行う。また、年1回開催している国際シンポジウムには、オンラインにて参加大学の学生が受講できるように配信する。教育の質保証と単位の実質化のため、成績評価には共通の成績評価シートを作成して使用する。8大学で共通の評価基準を用いて、担当教員によ

(大学名：大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

る評価を行う。加えて、学生の自己評価シートを活用し、教員と学生からのフィードバック内容を国際教員会議で共有し、各国のプログラム実施に反映する。プログラム実施には学生・教員の評価内容を用いて、PDCAサイクルを回し、プログラムの改善と質保障を行う。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

感染症対策による渡航制限が緩和された後、短期交流に関しては学生の希望に合わせ、実渡航での参加とオンラインでの参加を選択可能とする。ハイブリッド型の交流プログラムに参加する学生は、実渡航による現地での施設見学や実習と合わせて、共通の講義内容をオンラインもしくは現地で受講し、上記のグループワーク・プロジェクトを行う。オンライン、実渡航に関わらず、グループワークに際しては、複数国の学生が共同で参加し、合同で行うプログラムとすることで、国際的な学生交流の機会を確保する。ハイブリッド型においても、教育の質保証と単位の実質化のため、成績評価には共通の成績評価シートを作成し、講義担当教員による評価を行う。教員と学生からのフィードバック内容は、国際教員会議で共有し、各国のプログラム実施と改善のために活用する。実渡航での参加の場合は、現地での生活支援、学習支援のためのチューターの設定と、連携先機関での見学・実習を組み合わせたプログラムへの参加となる。また、毎年開催する同窓会と、開催に伴う同窓生の研究発表会については、実渡航とオンラインでの参加の両方可能とし、より多くの同窓生の参加を促す。

CAプラス事業においては、ポストコロナ時代における、国際交流プログラムを充実させるため、実渡航とオンラインを組み合わせた実質的な交流を計画している。

①英語による授業・実習・研究の機会の拡充

- ・授業・実習のシラバスの改訂・充実を行う。
- ・交流プログラム実施マニュアルを策定する。
- ・国際シンポジウム、CA留学経験者同窓会を毎年開催する。
- ・オンラインを活用したプログラム提供を充実させる。
- ・単位認定制度の調整を行う。

②博士課程大学院でのダブル・ディグリー体制の拡充

- ・タイ王国マヒドン大学、中国広東薬科大学、大阪大学微生物病研究所との事業実施体制の形成、交流協定書とMOUの締結を行う。
- ・学生のチュートリアル制度を含む個別サポート体制の整備を行う。

③連携研究機関における実習・研究指導の拡大

我が国の代表的なグローバルヘルスの研究機関である国立国際医療研究センター・グローバルヘルス政策研究センターを新たな連携機関として、実習、セミナー、フィールド研究、インターンシップ、研究指導の体制を拡大する。

④企業や国際行政機関等でのインターンシッププログラムの拡大

現在、大阪大学大学院医学系研究科が共同研究を進めている生命保険会社、総合建築会社、WHO神戸研究センター等のインターン先の拡大を目指す。

⑤交流プログラム実施マニュアルの策定

新たにCAプラス事業に参加するタイ王国マヒドン大学、中国広東薬科大学、大阪大学微生物病研究所、連携研究機関である国立国際医療研究センター・グローバルヘルス政策研究センターと、これまでの参加大学と同様の交流プログラム実施マニュアルを策定する。

⑥内部質保証システムの構築・運用

これまで構築できた内部質保証システムを新規参加の大学・研究所に適用して、運用する。

⑦外部評価システムの構築・運用

外部評価委員会を設定し、毎年開催し、CAプラス事業の改善・充実を図る。

⑧学習・生活支援の拡充

- ・CA留学生のための学習環境、研究環境の整備を継続して行う。
- ・派遣受入学生の書類・面接試験の実施・認定・派遣受入制度の整備を行う。
- ・日、中、韓およびタイ王国の大学の教員、交流支援スタッフによる学生のサポート体制の拡充

⑨国際的ネットワークの構築のための同窓会交流を促進

- ・留学修了者は年に1回報告会での発表と英文報告書の作成を行う。
- ・同窓会Webサイト、メールマガジンによる定期的な意見・状況（研究・人事公募状況も含む）交換を行い、将来の大型共同研究につながる国際的なネットワークを形成する。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4 ページ以内】**【実績・準備状況】****1) 相手大学の公的な認可等**

大阪大学大学院医学系研究科は、中国の北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学、韓国の延世大学校といった、日中韓のトップ5大学と学術交流協定を結び活動してきた。2021年度からは中国の広東薬科大学と、タイ王国内のランキング2位のマヒドン大学も加わり、8校間での緊密な連携のもと、キャンパス・アジア (CA) プログラムを展開する。いずれの大学もIAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)に掲載されている大学である。

2) 透明性、客観性の高い厳格な成績管理、学修成果の可視化と出口管理の厳格化による単位の実質化

本プログラムではキャンパス・アジアの連携講座教授から成る「キャンパス・アジア教務委員会」を組織しており、成績評価に参加大学間共通の基準と様式を用いることを定めるなど、質の保証の体制整備に努めてきた。学生の単位認可については、大阪大学にて開講している国際交流科目、グローバル人材研修科目等と連携し、大学の厳格な成績管理システムによる評価と、データ管理を行っている。第2期CAプログラムでは、参加学生からの意見聴取(アンケート、懇談会)、担当教員によるレビュー・自己評価等の結果を国際教員会議にて共有し、プログラム構築のPDCAサイクルを回しながら制度整備を行ってきた。学修成果の可視化のため、コア・コンピテンシーの設定とシラバス、成績管理の体制に関しては今後協議してゆく。DDPの設置に際する学位審査や単位授与、入学資格、卒業資格等に関する議論とシステム管理については、新規に加入する大学とも国際教員委員会を整備し、推進する。

3) 単位の付与・相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスの明確化

DDPにおいて、DD候補学生は送り出し大学と受入れ大学双方において、それぞれ定められた卒業要件を満たし、各大学において学位論文を執筆して審査に合格することにより、2大学の学位を取得することとしている。ただし、DDPにおいては、学生ごとに個別に作成されたコチュテルにおいて予め定められた科目について単位互換を行い、留学期間中に新たに取得する単位と合わせて、卒業認定単位として審査するシステムを運用している。短期・中期の派遣受入学生については、GPAを考慮した取得単位の上限数を設定し、各受入大学の単位付与規定に基づく単位の取得と、相互認定を行っている。

4) 海外相手大学との制度等の相違への配慮

アカデミックカレンダーの違い、単位認定の算定根拠となる講義時間数の違い等、各国大学における履修規定の相違を調整し、各大学における単位取得と、単位の相互認定を行うことができる体制の整備を行ってきた。

5) オンラインの活用による留学効果の増大

新型コロナウイルス感染症の流行下において、短期・中期の留学が制限され、一部のDD候補学生についても一時帰国を余儀なくされる中、代替教育と派遣・受入学生の安全安心確保のため、オンラインやハイブリッド型の交流を導入しながらプログラムを進めてきた。オンラインによる交流では、実渡航による交流に比べ多くの学生の参加が可能になることから、より多くの学生が国際的な研究活動に興味を持つきっかけとなるように、今後も積極的に活用していく。

6) オンラインを活用した教育プログラムにおける質の保証

オンラインによるCAオンラインセミナーでは、参加大学の教員による講義の受講と、実習としての学生同士のグループワークを組み合わせることにより、国際的な学生交流の機会を確保している。セミナー後には受講者のアンケートを行い、回収された意見はプログラムの改善のために役立てている。

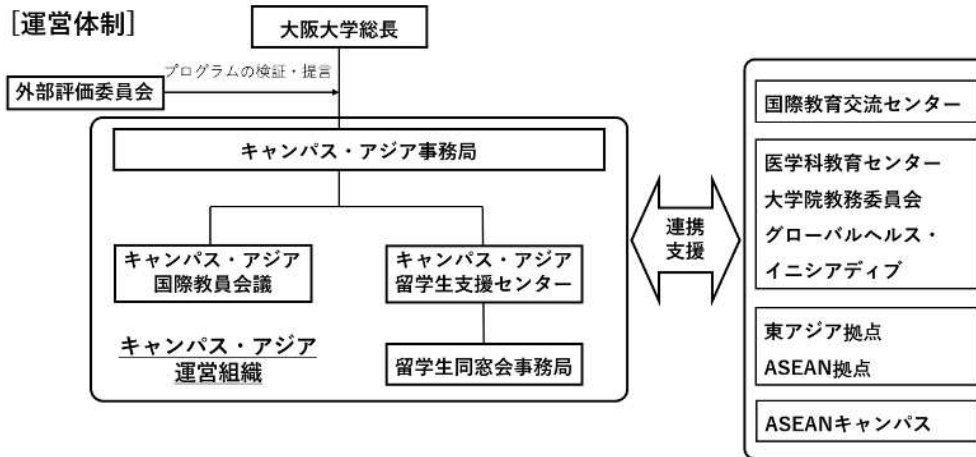
7) グローバル化に対応した教員体制の充実

留学生の受け入れ先となる教室の教員は、海外経験が豊富であり英語に堪能であるため、学生は日本の学生と同じ条件の下で、実習や研究を実施することができる。CA事務局には海外の大学での学位取得経験のある日本人教員と、外国人教員が配置されており、講義履修・研究実施・学位取得・生活面において学生のサポートにあたっている。また、コンソーシアム大学間で、研究連携・教育連携をより緊密に行うために、互いに連携大学の教員を招いて学生指導、講義やセミナー開催、共同研究を実施している。これにより、短期・中期の学生に向けた講義やセミナーの充実はもとより、長期滞在の学生のための研究指導体制が充実し、DDPにおける実質的な教育体制の質の保証につながっている。具体的には北京大学、延世大学校など、コンソーシアム大学の教員が、研究や講義を大阪大学で行うために、招へい教授として在籍し、同様に大阪大学の教員が、招へい教員として北京大学や延世大学校に在籍する体制を整備した。

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

8) ダブル・ディグリー・プログラムにおける質保証

大阪大学大学院医学系研究科は北京大学、上海交通大学、天津中医薬大学、延世大学校とDDP協定を締結し、DD取得のための体制を整備するとともに、入学から卒業までのシームレスな学生支援体制を確立している。DD候補学生は博士課程における4年間の履修期間の内、約2年間海外の大学において授業・実習、研究を行い、単位修得並びに研究成果（原著論文）の評価基準をクリアすることでそれぞれの大学での博士学位を取得できる。この制度は中央教育審議会大学分科会大学のグローバル化に関するワーキンググループ「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」（平成26年11月）に準拠している。



9) 内部質保証システムによるプログラムの改善

CAプログラムを通して、参加大学が、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため内部保証システムを構築し、情報を共有してきた。参加学生からの意見聴取（評価シートとアンケート調査への回答、懇談会への参加による意見交換）を行い、参加者の満足度や学習効率向上が実感できる体制の構築を進めてきた。学生からの評価結果と合わせて、各大学の受入担当教員によるレビューと自己評価を行い、国際教員会議において全大学から報告を共有している。国際教員会議は、各大学の責任教授と実施担当教員、国際交流担当職員らによって構成される。毎年、ホスト大学は持ち回りとして、毎年開催し、6大学から集められた参加学生、担当教員からのフィードバックをもとに1年間の活動に対する評価と、次年度以降の計画策定を行い、PDCAサイクルを毎年回しながらプログラムを運営・実施してきた。また、各大学の単位取得にかかる成績評価に関しては、各大学の履修基準を遵守すると共に、CAプログラムが提供する講義やプログラムの評価にあたっては、CAプログラム独自の書式を共有し、参加大学間で共通の基準と様式を用いた評価としている。

10) 外部評価システムによる質の保証

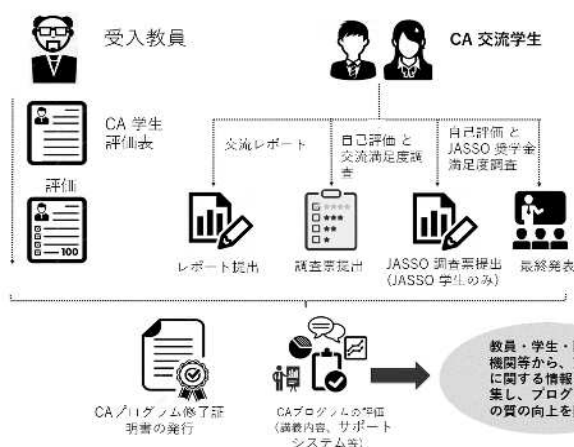
大学、公官庁、民間企業から委員を迎えて、年に1度プログラムの活動報告と意見聴取を行う、外部評価委員会を開催している。学生、教員による内部評価、及び外部評価の結果をもとに、プログラムの改善を図ってきた。

11) 学生のニーズに合わせたきめ細やかな対応

受入学生一人ずつに対して、面接の設定、聞き取り情報に基づく受入プログラムの作成を行っている。その際、送り出し側の大学の担当者と連携を密にとり、留学前から学生の研究や学習の希望、要配慮情報等を共有し、受入研究室を選定し、担当教員との面接や、受入れの調整を等経て、マッチングを行う。2021年8月現在、22講座が教育・研究の受け入れをしており、講座間の連携のもと、基礎、臨床、社会医学の分野を幅広く網羅する形で、留学生に医学・公衆衛生学研究的学習の機会と分野横断型の指導を提供できるプログラムへと拡大している。

その他、大阪大学医学部では医学科教育センターの教員が、大学院医学系研究科では担当教室の教授・教員が、それぞれ留学中の学部学生、大学院学生、研究生のサポートを行っている。加えて、CAプログラムの派遣学生には、キャンパス・アジア事務局担当者が、留学中の学生へ必要な情報の提供や、インターネット等を通じた相談を行い、現地大学の担当者と密に連携を取って、学生の危機管理、履修相談、生活・言語のサポート等を個別に実施している。各大学において、留学学生を対象とする、単位認定可能な科目を拡充し、DDPを中心に、履修体系、履修順序、単位互換、相互認定の手続についての整備を、今後新規に参加する大学との間でも進める。韓国・中国の大学とは、秋学期、春学期それぞれ1か月ずつ学期の始まりの時期が異なる。そのため、各校のアカデミックカレンダーの違いを考慮した留学プログラムを設定している。アジアの大学間では時差の問題は少ないが、春節の時期等、各国の文化的行事による学年暦の違い等、学生の履修に支障がない様に情報提供や個別の学生サポートを行っている。第3期の事業展開においては、第2期の経験を踏まえて、新規参加の大学との間で同様の展開を進める。

短期・中期留学生：学生評価システム



【計画内容】

(i) 実渡航による交流

学生の受け入れ先となる協力教室を拡大し、より多様なニーズに対応できるようにする。また、参加大学間で、教育・研究連携をより緊密に行うために、教員の交流や招へい教員の行き来をさらに活発化させ、学生に向けた講義・実習・セミナー、長期プログラム参加学生のための研究指導体制の充実を図る。新たな参加大学であるマヒドン大学、広東薬科大学も含めて内部質保証システムを構築する。具体的には、参加学生からの意見聴取（評価シートとアンケート調査への回答、懇談会への参加による意見交換）を行い、さらに参加者の満足度や学習効率向上が実感できる体制とする。学生からの評価結果と合わせて、各大学の受入担当教員によるレビューと自己評価を行い、国際教員会議において全大学から報告を共有する。国際教員会議は、各大学の責任教授と実施担当教員、国際交流担当職員らによって構成される。毎年、ホスト大学は持ち回りとして、定期的開催され、8大学から集められた参加学生、担当教員からのフィードバックをもとに1年間の活動に対する評価と、次年度以降の計画策定を行い、PDCAサイクルを毎年回しながらプログラムを運営・実施する体制を拡充する。

また、各大学の単位取得にかかる成績評価に関しては、各大学の履修基準を遵守すると共に、CAプログラムが提供する講義やプログラムの評価にあたっては、CAプログラム独自の書式を共有し、参加大学間で共通の基準と様式を用いた評価とする。新外部評価委員会を設置し、そこで出た意見をプロジェクトの質向上に活かす。キャンパス・アジアプログラムのアドミッションポリシーと、それに連動したグローバルリーダー育成のためのコア・コンピテンシー、シラバスの作成を目指す。以上の点に留意しつつの学生交流を行う。

・**短期留学プログラム（1 か月）の内容**：オリエンテーション、英語での講義受講、e-learning受講、研究セミナー受講、研究教室訪問・討論、研究プロジェクト立案、演習、フィールド実習、留学成果発表会、コース受講(単位認定)

・**中期留学プログラム（3～6か月）の内容**：短期留学プログラムに加えて、研究プロジェクト参加、研究発表・討論、国際学会の参加、国際学会での発表、インターンシップ（企業、行政機関）

・**長期留学プログラム（1～2年）の内容**：中期留学プログラムに加えて、研究・共同研究の実施、研究論文の作成、国際学会での発表、インターンシップ（企業、行政機関）、ダブル・ディグリートラック（医学科：大阪大学2年間+海外の大学2年間、保健学科：大阪大学1.5年間+マヒドン大学1.5年間）

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①：CAプラス)

(ii) オンライン交流

新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、プログラム開始初年度は、中・長期の実渡航プログラムと合わせて、短期留学を中心にオンライン交流を積極的に活用する。その際、参加大学の教員による講義受講と、実習として学生同士のグループワークを組み合わせることにより、国際的な学生交流の機会を確保する。交流プログラム終了後には参加者アンケートを行い、回収された意見は国際教員会議に報告し、プログラムの改善を図っていく。

具体的な交流内容としては、夏・秋・冬に1度ずつ、コンソーシアム大学の学生参加ができる英語による講義とのグループワーク・プロジェクトを開催する。グループワーク・プロジェクトでは、講義内容を踏まえた上で、健康課題の解決を目指したテーマを、各グループごとに設定し、研究計画を策定する。各グループは合同発表会においてプレゼンテーションとディスカッションを行う。各グループの計画策定にあたって必要となる学習・研究指導と、チュートリアルには、教員と各大学の招へい教員も参加する。学生は、グループ内でのディスカッションと、具体的な研究計画策定を見据えたグループワークを日中韓およびタイ王国の学生で混成されたグループで行う。各グループごとの研究報告には、参加大学の教員が、研究内容へのフィードバックとコメントを行う。交流プログラム終了後には参加者アンケートを行い、回収された意見は国際教員会議に報告し、プログラムの改善を図っていく。また、年1回開催している国際シンポジウムには、オンラインにて参加大学の学生が参加できるように配信する。成績評価には共通の成績評価シートを用いて、講義担当教員による評価を行う。加えて、学生の自己評価シートを活用し、教員と学生からのフィードバック内容を国際教員会議で共有し、各国のプログラム実施に反映する。プログラム実施には学生・教員の評価内容を用いて、PDCAサイクルを回し、プログラムの改善と質保証を行う。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

感染症対策による渡航制限が緩和された後、短期交流に関しては学生の希望に合わせ、実渡航での参加とオンラインでの参加を選択可能とする。ハイブリッド型の交流プログラムに参加する学生は、実渡航による現地での施設見学や実習と合わせて、共通の講義内容をオンラインで受講し、上記のグループワーク・プロジェクトを行う。オンライン、実渡航に関わらず、グループワークに際しては、複数国の学生が共同で参加し、合同で行うプログラムとすることで、国際的な学生交流の機会を確保する。成績評価には共通の成績評価シートを作成し、講義担当教員による評価を行う。交流プログラム終了後には参加者アンケートを行い、回収された意見は国際教員会議に報告し、絶えずプログラムの改善を図っていく。加えて、学生の自己評価シートを活用し、教員と学生からのフィードバック内容を共有し、学生・教員の評価内容によるプログラムの改善と質保証を継続的に行う。実渡航での参加の場合は、現地での生活支援、学習支援のためのチューターの設定と、連携先機関での見学・実習を組み合わせたプログラムへの参加となる。また、毎年開催する同窓会と、開催に伴う同窓生の研究発表会については、実渡航とオンラインでの参加の両方可能とし、より多くの同窓生の参加を促す。

次期の世界展開力事業としてASEAN諸国にも広げることで、本申請プログラムが医学・公衆衛生学分野における我が国の大学間交流促進の牽引役となり、学部学生並びに大学院学生への波及効果の大きい国際交流プログラムとして発展、定着することが期待できる。新しく加入する中国の広東薬科大学、タイ王国のマヒドン大学とも同様の体制を組み、より充実したプログラムを展開する予定である。

東アジア、東南アジアに位置する4か国は、共通して仏教、儒教等の影響を強く受けながら欧米とは異なる独自の文化を育んできた歴史がある。アジア文化圏における4か国の特性と共通点を生かした東アジア、東南アジアのトップクラスの大学間コンソーシアムを形成することの意義は大きい。本プログラムでは、欧米の直線的な論理思考能力を理解・体得しながらも、調和性・包括性・融合性の観点や柔軟な思考能力を有し、世界的健康問題の解決や地域における諸課題に対処できる、問題解決型の医学・公衆衛生学研究リーダーの育成を行うことを目指す。

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①： CAプラス)

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】**① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について****(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）**

感染症対策、生活習慣病予防等、世界的な健康課題に対して、グローバルな視点で解決し、地域特有の課題にも対応できる人材育成が急務である。本プログラムでは 東アジア、東南アジアにおいて複雑化する健康課題の解決のため、グローバルヘルスの視点から、感染症、生活習慣病、認知症、老化関連疾患等の健康課題への解決力を持つ人材の育成を目指す。課題解決のためのコミュニケーション力を持ち、課題解決の実行力とリーダーシップを発揮できる、グローバルヘルス・リーダーの育成を目標とする。

養成する研究者は、自国、他国の大学や、各国の公的研究所、国内外の健康関連企業の研究者、国内の行政機関やWHO等の国際行政機関の構成員、さらには医療、保健の臨床現場、疾病予防の最前線において、幅広い活躍が期待される。現在の新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延で代表されるように、グローバル社会における健康課題の解決は、国境や地域の垣根を超えた健康課題への対応の体制が必要である。加えて、アジア地域では、今後少子高齢化が急激に進展することが予測されており、老化関連疾患への対応も最重要課題の一つである。認知症は、今後世界全体の3分の2以上の認知症患者が、中・低所得国において居住することが推計されている。医療や社会保障の体制が十分に整わない国や地域においても、認知症の予防、治療、ケア等の対応が、臨床医学、基礎医学、社会医学、保健学等の分野において強く求められている。

将来的にプログラム参加者は、キャンパス・アジア(CA)の同窓会等を通じてグローバルなネットワークを構築し、東アジア・東南アジア諸国ならびに世界における健康問題の解決にあたることが期待される。東アジア、東南アジアに位置する4か国は、共通して仏教、儒教等の影響を強く受けながら、欧米とは異なる独自の文化を育んできた歴史がある。そのため、東アジア、東南アジアのトップクラスの大学間コンソーシアムを形成することの意義は大きい。なぜなら、欧米型の直線的な論理思考能力と、アジア型の螺旋的な思考能力を合わせ持ち、世界的な健康課題と地域独自の健康課題を解決する、医学・公衆衛生学研究者の育成が期待できるからである。日・中・韓とASEAN諸国の一つであるタイ王国を加えた4か国の特性と共通点を生かすことで、問題解決型のグローバルヘルス・リーダーを育て、アジア諸国における教育研究プラットフォームを構築し、教育研究の相乗効果を生むプログラムの拡充を目指す。東アジアでの健康問題の解決は、次いで少子高齢化が進むとされる中央アジアやアフリカ諸国においても応用でき、世界的な展開が期待される。

本プログラムを通して、日・中・韓およびタイ王国初となる医学系研究科のダブル・ディグリー(DD)博士号の取得者を参加8大学との間で輩出する。加えて、短期・中期の交流プログラムの修了生も含めた同窓会の組織の拡大と、共同研究の国際的ネットワークを拡大する。そのため、CAプラス事業においては、ポストコロナ時代における、国際交流プログラムを充実させるため、短期・中期・長期の留学について、実渡航とオンラインを組み合わせた実行力のある交流の実施を計画している。

- ①英語による授業・実習・研究の機会拡充の達成
- ②博士課程大学院でのダブル・ディグリー体制の構築・拡充の達成
- ③連携研究機関における実習・研究指導體制の拡大達成
- ④企業や国際行政機関等でのインターンシッププログラムの拡大達成
- ⑤交流プログラム実施マニュアルの策定
- ⑥内部質保証システムの構築・運用を達成
- ⑦外部評価システムの構築・運用
- ⑧学習・生活支援の拡充の達成
- ⑨国際的ネットワークの構築のための同窓会交流の促進達成

(i) 実渡航による交流内容の達成

- ・短期留学プログラム(1か月)の交流内容：
オリエンテーション、英語での講義受講、e-learning 受講、研究セミナー受講、研究教室訪問・討論、研究プロジェクト立案、演習、フィールド実習、留学成果発表会、コース受講(単位認定)
- ・中期留学プログラム(3～6か月)の交流内容：
短期留学プログラムに加えて、研究プロジェクト参加、研究発表・討論、国際学会への参加、国際学会の発表、インターンシップ(企業、行政機関)
- ・長期留学プログラム(1～2年)の交流内容：
中期留学プログラムに加えて、研究・共同研究の実施、研究論文の作成、国際学会での発表、インターンシップ(企業、行政機関)、ダブル・ディグリートラック(医学科：大阪大学2年間+海外の大学2年間、保健学科：大阪大学1.5年間+マヒドン大学1.5年間)

(ii) オンライン交流の達成

新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、プログラム開始初年度は、中期・長期の実渡航プログラムと合わせて、短期留学を中心にオンライン交流を積極的に活用する。オンラインによるプログラム提供として、夏・秋・冬に1度ずつ、参加大学の学生が英語による講義の受講と実習としてのグループワー

ク・プロジェクトに参加する。各グループは、講義内容を踏まえた、健康課題解決のための研究計画策定を行い、合同発表会において、プレゼンテーションとディスカッションを行う。各グループの計画策定にあたって必要となる学習・研究指導と、チュートリアルには、各大学の招聘教員も参加する。学生は、グループワークを日中韓およびタイ王国の学生で混成されたグループで行う。各グループの報告には、参加大学の教員が、フィードバックを行う。内容はオンラインにて参加大学の学生が受講し、議論に参加できるように配信する。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流の達成

感染症対策による渡航制限が緩和された後、短期交流に関しては学生の希望に合わせ、実渡航での参加とオンラインでの参加を選択可能とする。ハイブリッド型の交流プログラムに参加する学生は、実渡航による現地での施設見学や実習と合わせて、共通の講義内容をオンラインで受講し、上記のグループワーク・プロジェクトを行う。オンライン、実渡航に関わらず、グループワークに際しては、複数国の学生が共同で参加し、合同で行うプログラムとする。実渡航での参加の場合は、現地での生活支援、学習支援のためのチューターの設定と、連携先機関での見学・実習を組み合わせたプログラムへの参加となる。また、毎年開催する同窓会と、開催に伴う同窓生の研究発表会については、実渡航とオンラインでの参加の両方可能とし、より多くの同窓生の参加することを達成する。

CAプラス事業においては、ポストコロナ時代における、国際交流プログラムを充実させるため、実渡航とオンラインを組み合わせた実質的な交流を達成する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

1) ダブル・ディグリー博士課程大学院での交流・研究指導

中間評価までの目標として、医学系研究科初のダブル・ディグリー博士号の取得者を北京大学、延世大学校との間で、それぞれ輩出する。更に、天津中医薬大学、上海交通大学、清華大学との間でダブル・ディグリー候補学生を受け入れるための体制を整え、単位互換ならびに成績評価システムの相互認定の整備を進める。

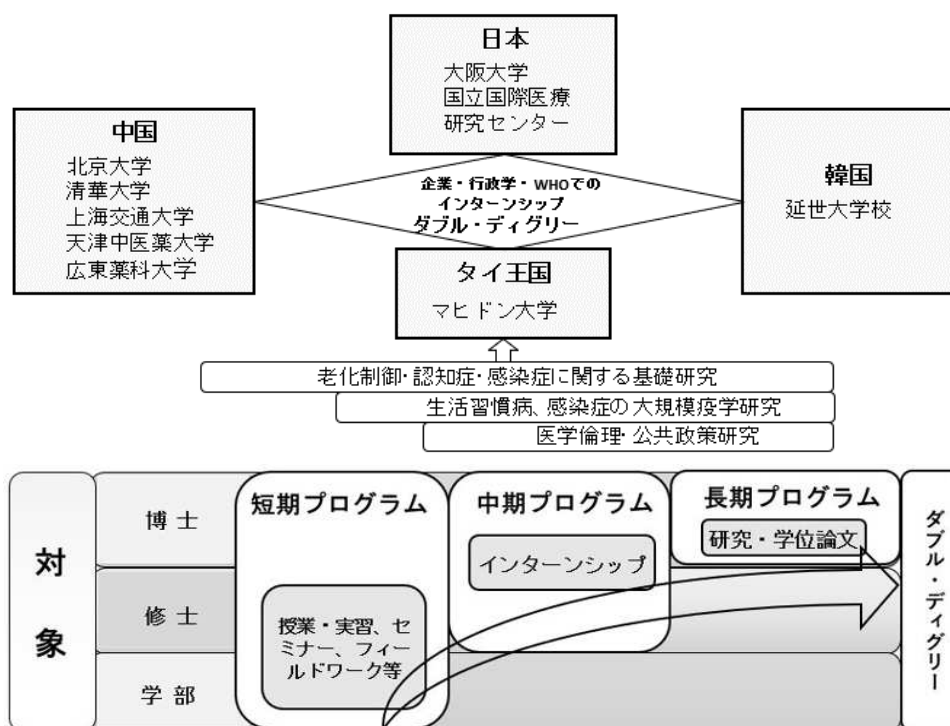
2) 博士課程大学院でのダブル・ディグリー教育プログラムの整備

清華大学、広東薬科大学、マヒドン大学と、ダブル・ディグリー取得のためのシラバス、単位互換、学位申請、学位授与等のに関する体制整備を行う。

達成目標

わが国初の医学・公衆衛生分野におけるキャンパス・アジアのダブルディグリープログラムの安定運用
世界的健康問題の解決に向けた医学、公衆衛生学研究リーダーの育成
アジアにおける医学教育研究ネットワークの拡大

日中韓タイ王国の大学コンソーシアム（共通カリキュラム・単位互換・成績評価、修了書発行）



(大学名：大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

養成するグローバル人材像

世界的健康問題の解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダー:

グローバル社会における現在の新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延で代表されるように、健康課題の解決は、国境や地域の垣根を超えた対応の体制が必要である。そのため、世界的な健康課題の解決力並びに、各国特有の課題に対応できる人材の育成が急務である。

少子高齢化の世界的な進展により、人類の健康問題は感染症から生活習慣病・認知症を初めとする老化関連疾患へのパラダイムシフトが起きた。特に東アジア諸国は欧米諸国に比べて少子高齢化が急速に進んだことで、社会保障体制の整備が追いつかない状況で、要医療、要介護の高齢者の急激な増加への対応が求められている。生活習慣病や認知症の増加、急速な経済発展に伴う大気水質汚染・温暖化、放射線汚染等の社会環境問題、新型コロナウイルス感染症のパンデミックに象徴される、交通・流通の国際化に伴う輸入感染症・新興感染症の問題等、様々な健康問題が顕在化している。日中韓およびタイ王国においては、1970年代の日本、1990年代の韓国とタイ王国、2000年代の中国で、急速な経済発展が起こったものの、最近の経済停滞とも相まって各国では、少子高齢化に伴う健康問題に対して、公衆衛生・医療における制度や政策の見直しを迫られている。制度・政策の見直しには絶えず最新の科学的知見が必要で、そのため老化の予防・医療に関する基礎的・革新的研究の進展が求められている。

これらの諸問題に対する長期的かつより抜本的な解決のためには、医学の知識・技術のみならず、社会経済・人文科学系の知識・スキル・態度を有する文理融合・問題解決型人材や、老化制御を軸とした生活習慣病や認知症の予防・治療研究、老化のメカニズムに関する基礎研究を推進のための若手研究者の組織的な育成が急務である。

本プログラムでは、世界的健康問題である感染症、生活習慣病、認知症、老化の予防・制御に関して論理思考並びに俯瞰力を有する医学・公衆衛生学研究リーダーの育成を目指す。そのため、大阪大学医学系研究科内における基礎、臨床、社会医学の研究分野が連携し、相手大学との留学プログラムを協同で進める。具体的には、交流学生の研究分野に応じたマッチングと、複数の協力講座における研究・教育活動を推進するローテーションプログラムを整備し、複数の協力講座の教員による学生評価を行うことで、連携講座との教育研究体制の強化を進めていく。

将来的には、自国の大学の教員のみならず、他国の参加大学やその他の研究大学の教員、日中韓・ASEANの公的研究所や国内外の健康関連企業の研究者、国内の行政機関やWHO等の国際行政機関の構成員としての活躍が期待される。

特に、同窓会等を通じてグローバルなネットワークを構築し、東アジア諸国における健康問題の解決にあたるような、リーダーシップ、コミュニケーション力及び専門知識を有した、アジア間で交流できるグローバルな人材の育成を目指す。

東アジア、ASEAN諸国での健康問題の解決は、次いで急速な少子高齢化が進むとされる中央アジアやアフリカ諸国においても応用でき、世界的な展開が見込まれる。

上記目標達成のための具体的目標

- ①参加大学の学部学生、修士課程大学院学生、博士課程大学院学生のプログラム参加希望者の増加：年間8人(2021年度の定員)から年間20人以上(2025年度)
- ②大阪大学の修士課程・博士課程大学院学生(基礎医学・社会医学分野)の入学者の増加：年間52人(2020年度)から年間70人(2025年度)
- ③参加大学からの共通授業の提供(英語)とe-learning システムの活用
- ④共通教材(英語)の編纂と、各国の言語(日本語、中国語、韓国語、タイ語)による翻訳資料の作成
- ⑤企業や国際行政機関等へのインターンシップ・プログラムの実施
- ⑥ダブル・ディグリー・プログラムの博士課程院生：派遣のべ30名、受入のべ33名(2021-2025年度)

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

養成するグローバル人材像

: 同上

上記目標達成のための具体的目標

- ①参加大学の学部学生、修士課程大学院学生、博士課程大学院学生のプログラム参加希望者の増加：年間8人(2021年度の定員)から年間10人以上(2022年度)
- ②大阪大学の修士課程・博士課程大学院学生(基礎医学分野・社会医学分野)の入学者の増加：年間52人(2020年度)から年間60人(2022年度)
- ③参加大学からの共通授業の提供(英語)の増加とe-learning システムの活用のための整備
- ④共通教材(英語、日本語、中国語、韓国語、タイ語)の編纂の方針の決定
- ⑤企業や国際行政機関等へのインターンシップ・プログラムでのインターンの開始
- ⑥ダブル・ディグリー・プログラムの博士課程院生：派遣のべ8名、受入のべ8名(2021-2022年度)

(大学名: 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	155人	413人
1	TOEFL iBT80点以上、IELTS6.0以上又はTOEIC740点以上	8人	30人
2	TOEFL iBT61点以上、IELTS5.0以上又はTOEIC550点以上	75人	213人
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

米国の主要な州立大学での留学生の基準で、学部や大学院での授業の理解や研究の遂行に支障をきたさないレベルとして一般に定められている。短期・中期留学の学生についてはTOEFL iBT61点以上、IELTS5.0以上又はTOEIC550点以上とし、長期留学の学生についてはTOEFL iBT80点以上、IELTS6.0以上又はTOEIC740点以上とした。本基準は、大学院医学系研究科で入学試験に求める英語点数の基準として、2014年度に定めている。同基準に基づき、キャンパス・アジアプログラムにおける留学生受け入れ基準を設定した。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

上記の基準に到達する留学生の割合が80%以上とする。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

上記の基準に到達する留学生の割合が60%以上とする。

(大学名：大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)

1) 日本人学生に習得させる能力

・短期留学(1か月) :

授業・実習・セミナーでの学習成果発表、英語での留学報告書の作成を課す。受入大学における授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。グループ課題の実施により複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループ・ワーク学習を通じて意見交換する力を身につける。

・中期留学(3～6か月) :

受入大学の授業・実習・セミナー・研究参加に関する成果の発表と英語での留学報告書作成を課す。各研究室における研究プロジェクトへの参加、各大学の教育研究プログラムへの参加を通じて、参加留学生在がグループ毎に発表する機会を持つことで、学生同士の相互サポートの機会と、留学期間を通じた問題分析力と課題解決力の養成を目指す。

・長期留学(1～2年) :

DD候補学生には、必要単位の修得と研究論文発表による学位取得要件を達成させる。研究成果の国際学会発表、企業・行政機関等でインターンシップを通じた企画力・コミュニケーション力の養成、DD候補学生として両大学における研究成果を学位論文にまとめ、学位取得要件を満たすための学問的専門性と国際人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目指す。

2) 外国人学生に習得させる能力

・短期留学(1か月) :

大阪大学における授業・実習・セミナー等での学習成果の発表、英語での留学報告書の作成を課す。受入大学における授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と、課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。グループ課題の実施により多くの日本人学生を含めた複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループ・ワーク学習を通じて意見交換する力を身につける。

・中期留学(3～6か月) :

大阪大学の授業、実習、セミナー、研究参加に関する成果の発表と英語での留学報告書作成を課す。授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と、課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。各大学の交流学生は研究プロジェクトへの参加、グループ課題の実施により、多くの日本人を含めた、複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループワーク学習を通じて、意見交換する力を身につける。学生同士の相互サポートの機会と、大阪大学での留学期間を通じた問題分析力と課題解決力の養成を目指す。

・長期留学(1～2年) :

DD候補学生には、必要単位の修得と研究論文発表による学位取得要件を達成させる。研究成果の国際学会発表、企業・行政機関等でインターンシップを通じた企画力・コミュニケーション力の養成、DD候補学生として両大学における研究成果を学位論文にまとめ、学位取得要件を満たすための学問的専門性と国際人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目指す。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)

1) 日本人学生に習得させる能力

・短期留学(1か月) :

授業・実習・セミナーでの学習成果発表、英語での留学報告書の作成。受入大学における授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と、課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。グループ課題の実施により複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループ・ワーク学習を通じて意見交換をする力を身につける。

・中期留学(3～6か月) :

受入大学の授業、実習、セミナー、研究参加に関する成果の発表と英語での留学報告書の作成を課す。各研究室における研究プロジェクトへの参加、各大学教育研究プログラムへの参加と共に、参加留学生在がグループ毎に発表する機会を持つことで、学生同士の相互サポートの機会と、留学期間を通じた問題分析力と、課題解決力の養成を目指す。

・長期留学(1～2年) :

DD候補学生は、必要単位の修得に向けた授業・実習の履修と研究論文発表の準備を進めさせる。研究成果の国際学会発表、企業・行政機関等でインターンシップを通じた企画力・コミュニケーション力の養成、DD候補学生として両大学における研究成果を学位論文にまとめ、学位取得要件を満たすための学問的専門性と国際人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目指す。

(大学名: 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

2) 外国人学生に習得させる能力**・短期留学（1か月）：**

大阪大学における授業・実習・セミナー等での学習成果の発表、英語での留学報告書の作成を課す。受入大学における授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と、課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。グループ課題の実施により多くの日本人学生を含めた複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループ・ワーク学習を通じて意見交換する力を身につける。

・中期留学（3～6か月）：

大阪大学の授業、実習、セミナー、研究参加に関する成果の発表と英語での留学報告書作成を課す。授業・実習・セミナーへの参加、各研究室における研究プロジェクトの見学、留学プログラムの最終日に設定された課題発表とディスカッション等を通して、世界的健康課題の解決に向けた学問的基礎知識の習得と、課題解決に向けた思考力の醸成を目指す。各大学の交流学生は研究プロジェクトへの参加、グループ課題の実施により、多くの日本人を含めた、複数大学の学生と一緒に課題作成を行い、議論やグループワーク学習を通じて、意見交換する力を身につける。学生同士の相互サポートの機会と、大阪大学での留学期間を通じた問題分析力と課題解決力の養成を目指す。

・長期留学（1～2年）：

DD候補学生では、必要単位の修得と研究論文発表による学位取得要件の準備を進めさせる。研究成果の国際学会発表、企業・行政機関等でインターンシップを通じた企画力・コミュニケーション力の養成、DD候補学生として両大学における研究成果を学位論文にまとめ、学位取得要件を満たすための学問的専門性と国際人材としてのコミュニケーション能力の獲得を目指す。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について**(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）**

これまで、大阪大学大学院医学系研究科22講座が研究・教育の受け入れ、学生派遣を実施しているが、新たに大学院医学系研究科保健学専攻、微生物研究所が加わり、講座間の連携のもと、基礎、臨床、社会医学の分野を幅広く網羅する形で、留学生に医学・公衆衛生学の教育・研究の機会と、充実した指導体制を提供できるプログラムへと拡大する。

学部・修士・博士の学生を対象として、短期・中期・長期の各プログラムにおいて、各講座の教授、スタッフが留学生を受け入れ、指導する体制のもと、CA事務局を中心として、留学生の研究希望に合わせて、研究室配属をマッチングする体制が構築されている。留学生の実質的な教育・研究指導を担当する大学院医学系研究科の研究室は、プログラム開始当初の2016年度には公衆衛生学、核医学、生体システム薬理学の3講座であった。その後5年間に研究協力の必要性和留学生の要望に応じて、遺伝学、医の倫理と公共政策学、統合生理学、放射線治療学、内分泌・代謝内科学、環境医学、麻酔・集中治療学、分子神経科学、病態病理学、免疫制御学、スポーツ医学、形成外科学、呼吸器・免疫内科学、免疫細胞生物学、医学統計学、精神医学、神経内科学の20基幹講座、肥満脂肪病態学、運動器バイオマテリアル学の2寄附講座、ならびに医学科教育センターが加わり、協力講座として連携体制を組んでいる。こうした体制をさらに拡充し、本プログラムを通じた日中韓及びタイ王国の参加大学との学生交流や共同研究を進める。

併せて、本プログラムではCAの講座教授により組織した「キャンパス・アジア教務委員会」を組織しており、参加大学間共通の基準と様式を用いて成績評価を行うことで、質の保証体制を強化する。

参加学生からの意見聴取（アンケート、懇談会への参加）、担当教員によるレビュー・自己評価等の結果の国際教員会議への報告や、DDPの設置に際する学位審査や単位授与、入学資格等に関する議論も行う。さらに、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため、参加学生からの意見聴取・自己評価、担当教員によるレビュー・評価を実施する。年1回の国際シンポジウムおよび国際教員会議をオンラインで開催し、単位の相互認定、成績管理、短期・中期交流学生への修了証発行等に関する確認・協議を行う。

新規参加大学との協定締結を行い、大阪大学ではGPA制度のもとで、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進める。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部署でのファカルティデベロップメント（FD）を継続してゆく。具体的な取り組みは以下のとおりである。

・透明性、客観性の高い厳格な成績管理、学修成果の可視化と出口管理の厳格化による単位の実質化

学生の単位認可については、大阪大学にて開講している国際交流科目、グローバル人材研修科目等と連携し、大学の厳格な成績管理システムによる評価とデータ管理を行う。学修成果の可視化のため、コア・コンピテンシーの設定とシラバス、成績管理の体制を今後、全参加大学と協議、整備する。DDPの入学資格、単位授与、学位審査、卒業資格等に関する議論とシステム管理については、新規参加大学と共に進める。

・単位の付与・相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスの明確化

DDPにおいて、DD候補学生は送り出し大学と受入れ大学双方において、それぞれ定められた卒業要件を満たし、各大学において学位論文を執筆することにより、2大学の学位を取得することが出来る。その際、学生ごとに個別に作成されたコチュテルにおいて予め定められた科目について単位互換を行い、

留学期間中に新たに取得する単位と合わせて、卒業認定単位として審査するシステムを運用している。短期・中期の派遣受入学生については、GPAを考慮した取得単位の上限数を設定し、各受入大学の単位付与規定に基づく単位の取得とその相互認定を行う。

・海外相手大学との制度等の相違への配慮

アカデミックカレンダーの違い、単位認定の算定根拠となる講義時間数の違い等、各国大学における履修規定の相違を調整し、各大学における単位履修と、単位の相互認定を行うことができる体制整備と留学支援体制について、新規参加の大学と共に進める。現地大学の担当者と密に連携を取って、学生の危機管理、履修相談、生活・言語のサポート等を個別に実施する。協定大学において、留学学生を対象とする単位認定可能な科目について、DDPを中心に、履修体系・履修順序、単位互換、相互認定の手続を整備する。

・オンラインの活用による留学効果の増大

オンラインによる交流では、実渡航による交流に比べ多くの学生の参加が可能になることから、多くの学生が国際的な研究活動に興味を持つきっかけとなるように、今後も積極的に活用していく。

・オンラインを活用した教育プログラムにおける質の保証

オンラインによるCAオンラインセミナーでは、コンソーシアム大学の教員による講義受講と、学生同士のグループワークを組み合わせることにより、国際的な学生交流の機会を確保している。セミナー後には受講者アンケートを行い、回収された意見はプログラムの改善のために役立てる。

・グローバル化に対応した教員体制の充実

互いに連携大学の教員を招いて学生指導、講義やセミナー開催、共同研究を実施する。これにより、短期・中期の学生に向けた講義やセミナーの充実はもとより、長期滞在の学生のための研究指導体制が充実し、DDPにおける実質的な教育体制の質の保証につながる。具体的には北京大学、延世大学校などの教員が、大阪大学招へい教授として在籍し、同様に大阪大学の教員が、招聘教授として北京大学や延世大学校に在籍する。以上のように、質の高い教育が提供されるように教育体制の充実を図る。

・ダブル・ディグリー・プログラムにおける質保証

大阪大学大学院医学系研究科は北京大学、上海交通大学、天津中医薬大学、延世大学校とDDP協定を締結し、入学から卒業までの学生支援体制を確立している。DD候補学生は博士課程における4年間の履修期間の内、約2年間海外の大学において授業・実習、研究を行い、単位修得並びに研究成果（原著論文）の評価基準をクリアすることでそれぞれの大学での博士学位を取得できる。

・内部質保証システムによるプログラムの改善

CAプログラムを通して、参加大学が、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上の図るため内部保証システムを構築し、情報を共有してきた。次期CAプラスプログラムにおいては、参加学生からの意見聴取（評価シートとアンケート調査への回答、懇談会への参加による意見交換）を行い、さらに参加者の満足度や学習効率向上が実感できる体制の構築を目指す。各大学の受入担当教員によるレビューと自己評価を行い、国際教員会議においてPDCAサイクルを毎年回しながらプログラムを運営・実施する体制を拡充する。また、各大学の単位取得にかかる成績評価に関しては、各大学の履修基準を遵守すると共に、CAプログラム独自の書式を共有し、参加大学間で共通の基準と様式を用いた評価とする。

・外部評価システムによる質の保証

大学、公官庁、民間企業から委員を迎えて、年に1度プログラムの活動報告と意見聴取を行う外部評価委員会を開催し、プログラムの改善を図る。

・学生のニーズに合わせたきめ細やかな対応

受入学生一人ずつに対して受入プログラムの作成を行っている。その際、送り出し側の大学の担当者と連携を密にとり、留学前から学生の研究や学習の希望、要配慮情報等を共有し、受入研究室を選定し、担当教員との面接や、病院での受入れの調整等経て、マッチングを行う。22講座が研究・教育の受け入れ、学生派遣を実施しており、講座間の連携のもと、基礎、臨床、社会医学の分野を幅広く網羅する形で、留学生に総合的な医学研究の機会と、充実した指導体制を提供できるプログラムとする。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

1) 国際教員会議の設置

国際教員会議を設置し、参加大学共通の交流プログラム実施ガイドラインの策定、単位互換・成績評価・修了証書発行、内部保証システムについて協議し共有体制の構築を行う。

2) 外部評価委員会の設置

参加大学以外からの教員、企業、行政機関の委員から成る外部評価委員会を設置する。

(大学名：大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1ページ以内】

現状(2020年5月1日現在)※1 (単位:人) 2

(i) 日本人学生数の達成目標

単位:延べ人数

事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)	413
中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)	155

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス(事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位:人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	9	16	17	19	21	82
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	60	60	60	60	60	300
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	7	7	7	7	31
合計人数	72	83	84	86	88	413

(a) 実渡航による交流

新型コロナウイルス感染症流行による渡航制限を考慮し、プログラム初年度は実渡航を9名とした。

(b) オンライン交流

渡航制限中、ならびに渡航制限解除後における、オンラインでの国際セミナーの開催を積極的に行う。航制限解除後においても、オンラインでの短期交流を行うことを可能とする。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

相手国に留学する前にもオンラインで相手国の授業やゼミに参加できるようにし、留学効果の向上を促す。年間、オンライン科目と海外実習科目を効果的に組み合わせ受講できるようにする。対面授業や実習事業とオンライン科目の組み合わせの効果を検証する。

※1 現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2020年5月1日現在の人数。

(大学名: 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1ページ以内】

現状(2020年5月1日現在)※1 (単位:人) 180

(i) 外国人学生数の達成目標

単位:延べ人数

事業計画全体の達成目標(事業開始～2025年度まで)	516
中間評価までの達成目標(事業開始～2022年度まで)	195

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス(事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位:人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	9	16	18	21	21	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	80	80	80	80	80	400
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	7	7	7	7	31
合計人数	92	103	105	108	108	516

(a) 実渡航による交流

新型コロナウイルス感染症流行による渡航制限を考慮し、プログラム初年度は実渡航を9名とした。

(b) オンラインによる交流

渡航制限中、ならびに渡航制限解除後における、オンラインでの国際セミナーの開催を積極的に行う。航制限解除後においても、オンラインでの短期交流を行うことを可能とする。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

相手国に留学する前にもオンラインで相手国の授業やゼミに参加できるようにし、留学効果の向上を促す。1年間オンライン科目と海外実習科目を効果的に組み合わせ受講できるようにする。

※1 現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2020年5月1日現在の人数。

(大学名: 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

（i）本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
北京大学・天津中医薬大学 清華大学・上海交通大学 広東薬科大学	延世大学校	マヒドン大学

（i）-1：プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	9	9	16	16	17	18	19	21	21	21	82	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	31	31

（i）-2：日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
交流相手国 中国	実渡航	6	7	12	12	10	11	11	13	15	14	54	57
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	22	22
交流相手国 韓国	実渡航	3	2	4	4	4	4	4	4	4	5	19	19
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	5
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	2	2	3	3	2	2	7	7
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	オンライン	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（大学名：大阪大学） （タイプ A①:CAプラス）

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	実渡航
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	オンライン
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	C	ハイブリッド
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流		
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1. 【代表申請大学】

大学名		大阪大学																
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
交換留学(北京大学)	派遣	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	14
交換留学(北京大学)	派遣	③	1	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	8
交換留学(北京大学)	受入	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	14
交換留学(北京大学)	受入	③	2	0	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	11
交換留学(清華大学)	派遣	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	0	0	1	2	0	1	12
交換留学(清華大学)	派遣	②	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(清華大学)	派遣	③	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
交換留学(清華大学)	受入	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	0	0	1	2	0	1	12
交換留学(清華大学)	受入	②	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(清華大学)	受入	③	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
交換留学(天津中医薬大学)	派遣	①	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	0	1	2	0	1	11
交換留学(天津中医薬大学)	派遣	②	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(天津中医薬大学)	派遣	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
交換留学(天津中医薬大学)	受入	①	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	0	1	2	0	1	11
交換留学(天津中医薬大学)	受入	②	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(天津中医薬大学)	受入	③	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
交換留学(上海交通大学)	派遣	①	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	9
交換留学(上海交通大学)	派遣	②	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(上海交通大学)	派遣	③	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
交換留学(上海交通大学)	受入	①	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	9
交換留学(上海交通大学)	受入	②	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(上海交通大学)	受入	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
交換留学(広東薬科大学)	派遣	①	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2	0	1	8
交換留学(広東薬科大学)	派遣	②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
交換留学(広東薬科大学)	派遣	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
交換留学(広東薬科大学)	受入	①	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2	0	1	8
交換留学(広東薬科大学)	受入	②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
交換留学(広東薬科大学)	受入	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
交換留学(延世大学校)	派遣	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	14
交換留学(延世大学校)	派遣	③	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	10
交換留学(延世大学校)	受入	①	1	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	14
交換留学(延世大学校)	受入	③	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0	10
交換留学(マヒドン大学)	派遣	①	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	1	0	0	1	8
交換留学(マヒドン大学)	派遣	②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
交換留学(マヒドン大学)	派遣	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
交換留学(マヒドン大学)	受入	①	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	0	1	0	0	1	8
交換留学(マヒドン大学)	受入	②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
交換留学(マヒドン大学)	受入	③	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
交換留学(北京大学/清華大学/天津中医薬大学/上海交通大学/広東薬科大学/延世大学校)	派遣	②	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交換留学(北京大学/清華大学/天津中医薬大学/上海交通大学/広東薬科大学/マヒドン大学)	受入	②	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	72	83	84	86	88	413
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	28	37	37	37	37	176
実渡航	5	10	10	10	10	45
オンライン	20	20	20	20	20	100
ハイブリッド	3	7	7	7	7	31
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	2	1	2	7
実渡航	1	1	2	1	2	7
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	5	5	8	9	30
実渡航	3	5	5	8	9	30
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	40	40	40	40	40	200
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	40	40	40	40	40	200
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

【外国人学生の受入】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	92	103	105	108	108	516
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	38	47	47	47	47	226
実渡航	5	10	10	10	10	45
オンライン	30	30	30	30	30	150
ハイブリッド	3	7	7	7	7	31
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	2	2	1	7
実渡航	1	1	2	2	1	7
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	3	5	6	9	10	33
実渡航	3	5	6	9	10	33
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	50	50	50	50	50	250
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	50	50	50	50	50	250
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名：大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣（日本⇒中国、韓国、ASEAN）【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
									表渡航	オンライン	ハイブリッド
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	天津中薬大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	20	0	20	0
2021	2021.11	~ 2022.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	40	0	40	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	天津中薬大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	天津中薬大学	中国	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	20	0	20	0
2022	2022.4	~ 2023.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	40	0	40	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	天津中薬大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世	中国/韓国	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	20	0	20	0
2023	2023.4	~ 2024.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	40	0	40	0
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	天津中薬大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2024	2024.4	~ 2025.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1

2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	20	0	20	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	40	0	40	0
2024	2024.4	~	2025.3	大阪大学	延世大学校・マヒドン 大学	韓国/タイ	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	北京大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	清華大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	天津中医薬大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	天津中医薬大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	広東薬科大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	上海交通大学	中国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	延世大学校	韓国	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	マヒドン大学	タイ	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	20	0	20	0
2025	2025.4	~	2026.3	大阪大学	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	40	0	40	0

②外国人学生の受入（中国、韓国、ASEAN⇒日本）【計画】

年度	交流期間	派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プロ グラム名 等)	交流形態	交流学 生数	(内訳)				
								実派航	オンラ イン	ハイブ リッド		
2021	2021.11	~	2022.3	北京大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~	2022.3	北京大学	中国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	0	0
2021	2021.11	~	2022.3	清華大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~	2022.3	清華大学	中国	大阪大学	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~	2022.3	天津中医薬大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~	2022.3	上海交通大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~	2022.3	延世大学校	韓国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	2	1	0	1
2021	2021.11	~	2022.3	延世大学校	韓国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2021	2021.11	~	2022.3	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	大阪大学	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	30	0	30	0
2021	2021.11	~	2022.3	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	大阪大学	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	50	0	50	0
2022	2022.4	~	2023.3	北京大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~	2023.3	北京大学	中国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3	0	0
2022	2022.4	~	2023.3	清華大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2022	2022.4	~	2023.3	天津中医薬大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1

2025	2025.4	~	2026.3	広東薬科大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	広東薬科大学	中国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	上海交通大学	中国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	上海交通大学	中国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	延世大学校	韓国	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	3	2	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	延世大学校	韓国	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	マヒドン大学	タイ	大阪大学	交換留学	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	1	0	0	1
2025	2025.4	~	2026.3	マヒドン大学	タイ	大阪大学	交換留学	②：単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	マヒドン大学	タイ	大阪大学	交換留学	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	0	0
2025	2025.4	~	2026.3	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	大阪大学	オンライン	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	30	0	30	0
2025	2025.4	~	2026.3	北京・清華・天津・広 東薬科・上海交通大学・延 世・マヒドン	中国/韓国/タイ	大阪大学	オンライン	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	50	0	50	0

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(v) 宿舎の提供について

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	23	23	24	25	26	28	28	28	113	116

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	74	96	99	104	106	479

【参加者を増加させるための取組】

プログラムに参加した派遣・受入学生に対しては、国内外での研究交流や活動支援の環境整備として、2017年に同窓会を発足し、CA事務局において同窓生名簿を管理し卒業・修了後のサポート体制を整備した。同窓生への定期的なニュースレターの送付及び年1回の同窓会総会の開催を実施し、年に1度開催される国際シンポジウムでは、キャンパス・アジア・プログラム同窓生が、研究発表を行う機会を設け、同窓生の研究の発展を共有するとともに、留学年度を超えた各大学の留学生の交流の機会を確保する。さらに留学経験者が、留学希望者への情報提供を行う機会を設けることで、留学生同士の縦・横のつながりの拡充にも努める。

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1)						0
(指標2)						0
(指標3)						0
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	3	2	1	2	1	1	2	2	8	9

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大阪大学 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
北京大学	認定者数	1	1	0	1	0	3
	認定単位数	10	10	0	10	0	30
天津中医薬大学	認定者数	0	0	0	0	1	1
	認定単位数	0	0	0	0	10	10
上海交通大学	認定者数	0	1	0	0	0	1
	認定単位数	0	10	0	0	0	10
延世大学校	認定者数	0	1	1	0	1	3
	認定単位数	0	10	10	0	10	30
年度別認定者数合計		1	3	1	1	2	8
年度別認定単位数合計		10	30	10	10	20	80

2. 国内連携大学 【大学名： 国立国際医療研究センター 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0	0

(大学名： 大阪大学)

(タイプ A①:CAプラス)

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

- 1) 大阪大学では、2014 年度より「ポートフォリオ」システムの運用を開始し、学部学生を中心に派遣の相談から安全管理を含めた留学中のサポートを一貫して行っている。また、学生自身の危機管理意識・能力の向上のため、大学の教育プログラムにて留学生危機管理サービス(OSSMA)への加入を義務化しており、渡航前の情報収集や渡航中の相談、海外医療アシスタンス、メンタルケアなどのサポートが受けられる体制を整えている。
- 2) 留学前に受け入れ大学の担当者、指導教員と綿密な打ち合わせ・合意のもとで、留学前、留学後の学内での履修指導や就職、進学支援等を進めている。特にメンタルケアに関しては、大阪大学の国際教育交流センター短期プログラム研究開発チーム及び国際学生交流課が対応している。必要に応じて本部の交流アドバイジング研究チームがキャンパスライフ健康支援センターのカウンセラーと連携してカウンセリングに当たっている。
- 3) 派遣学生には、現地大学の担当者とも密に連携を取りながら履修相談等を個別に行っている。協定大学において留学生を対象とした単位認定可能な科目の整備を継続的に進めており、ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)を中心に、履修体系、履修順序、単位互換、相互認定の手続を確立した。中国、韓国の大学は春入学が3月、秋入学が9月と他の大学と異なるためアカデミックカレンダーの違いを考慮した留学プログラムを設定し、学生の留学時期等に配慮して学生の履修に支障がない様に情報提供や個別の学生サポートを行っている。
- 4) 就職支援として大阪大学の学生・キャリア支援課と国際学生交流課が連携してあたっており、グローバル人材対象の企業との交流会を学内で開催している。大学院医学系研究科では大学院セミナーで産業界からの講師を招待して、積極的に産業界との連携や交流の機会を提供している。加えて、第2期のキャンパス・アジア(CA)プログラムでは、留学期間中の企業派遣やインターンシップの受入も積極的に整備しており、海外での例として、中国清華大学への留学派遣において、健康情報の提供や AI を使用した健康づくりに関するベンチャー企業等への派遣を行ってきた。
- 5) 講義や大学が提供するプログラム以外に、学生交流やネットワーク構築の機会を増やすため、全学や医学部の国際交流を主眼とする学生の集まりやサークル活動に積極的に参加を促している。例として、全学の国際交流サークルや、留学生支援センターにおける交流の機会、医学部と大学院医学系研究科における国際保健の研究サークル等、国際交流を主眼とする学生の集まりやサークル活動が挙げられる。中期・長期の留学生に対しては、海外の留学先における、ボランティア活動等に関する情報提供を行っている。

【計画内容】

安全管理の体制として、CA 留学生支援センターが、上記の組織・体制と協働して、本プログラムの HP を通じた情報提供と、個別の学生への連絡調整を組み合わせ、十分な情報提供、相談、サポート、安全管理を行う。学生に対しても、渡航前後及び来日前後に説明会を行い、学生自身の危機管理意識を高める。さらに、日本人の派遣学生には学研災や JI 海外旅行包括保険への加入(一人あたり保険代金 10,980～13,190 円)を推奨し、各自での保険加入を義務づける。さらに先方の受入大学との間で調整を行い、アカデミックカレンダーの相違を考慮した学生の修学(科目履修、単位互換)・研究の体制構築と、学生の情報の定期的な把握を行う。重要な案件が発生した際には、解決にあたる国際教員会議の運用と共に、緊急事案対応の体制を整備する。その他、産業界、自治体との連携協力によるインターンシップ、講義提供以外の場での学生の活動・交流の場の確保を行う。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

- 1) 大阪大学では各部局と国際学生交流課が協力して在籍管理に当たっている。ホームページの英語版は、日本語非母語話者が情報過疎に陥らないよう十分な注意を払って運営されている。また、在籍管理と単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等の情報提供をしている。
- 2) 大阪大学では既存の複数の留学生用宿舎に加え、「グローバルビレッジ津雲台」、「グローバルビレッジ箕面船場」の運用を開始し、手続き等は国際教育交流センターサポートオフィスにて行っている。履修指導、カウンセリング、就職支援に関しては国際学生交流課、国際教育交流センター短期プログラム研究開発チームが履修指導オリエンテーションを開催している。全学的には国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」が留学生の生活面をサポートし、アドバイスをを行うとともに、必要に応じてキャンパスライフ健康支援センター等と連携し、カウンセリングを行う。また、留学生向けの就職支援を行っており、いずれも学内の関係部局等と連携協力して対応している。学部学生に対しては、教員が履修指導、カウンセリング、事務職員が学内外での諸手続き、宿舎手配の支援を担当している。
- 3) 学生個別に渡航計画前、計画時、渡航中に、履修相談と研究・実習等の実施体制についての個別面談を行

い、アカデミックカレンダーの違いや認定可能な単位等を考慮した、個別の留学プログラムを作成している。

- 4) 留学生のインターンシップ参加の機会について、大阪大学医学部学生・大学院学生と同様の支援並びに就職支援を行っている。大学院学生を対象とした大学院セミナーでは、海外の大学の著名な講師による講義や研修を行い、積極的に国内外の大学との連携のもと機会提供を進めている。2015 年度より大学内に設置された産学連携・クロスイノベーションイニシアティブと連携し、産学連携の一層の深化を図る予定である。
- 5) CA 事務局においても、日本滞在期間における留学プログラムの一環として、大阪がん循環器病予防センター、大阪国際がんセンター、大阪重粒子線センター、その他、保健医療施設、高齢者福祉施設等での見学実習を行っている。見学実習先で案内される、保健医療施設、高齢者福祉施設等におけるボランティア活動への参加機会に関する情報提供は、日本人学生と留学生に合わせて実施している。外国人留学生のボランティア活動や、サークル活動への参加については、留学保険に加えて、日本におけるボランティア保険への加入を促す等、安全管理についても必要な情報提供を行っている。

【計画内容】

日本滞在中の安全管理体制は、参加大学との合意に基づき進めており、相手大学・本学の危機管理体制を理解し的確な判断ができるよう、緊急事案対応について定期的に担当教員の知識と認識を高めるためのFDへの参加を計画している。また、留学に関する課題・インシデント等に関しては記録を残し、必要に応じて国際教員会議で協議し、交流プログラムの改訂・充実に役立てる。本事業では、留学生の履修計画支援・学習支援・生活面のサポート体制の基盤となる「キャンパス・アジア留学生支援センター」(事業の概念図参照)を設置し、英語でのコミュニケーションが十分とれる特任准教授、特任助教、事務補佐員を配置するとともに、日本人学生の留学生サポーター(チューター)を選定し、上記の組織・体制と協働して、きめの細かい支援やカウンセリングを行う。また、本プログラムのHP(日本語、英語、各大学の母国語)を開設し、海外学生への情報提供を本学海外拠点である東アジア拠点(中国・上海)及びASEAN拠点(タイ・バンコク)と連携して運用する。宿泊施設は上述のグローバルビレッジを活用する。留学生のインターンシップ、ボランティア参加の体制については、大学、企業、自治体、国際医療研究センター等の連携先と協同で整備する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

- 1) 大阪大学医学部では医学科教育センターの教員が、大学院医学系研究科では担当教室の教授・教員が、それぞれ CA 事務局と連携して、関係大学の担当教員とメール、電話、WEB 会議等で、十分な連絡・情報共有を行う体制をとっている。
- 2) CA プログラムによる交換留学体験者(同窓生)のネットワーク強化と維持のために、2018 年に同窓会を組織し、会員へのニュースレターの送付及び年 1 回の同窓会総会の開催を実施している。現在会員数は 124 名で、同窓生名簿の管理は大阪大学 CA 事務局において行っている。同窓会総会は国際シンポジウムと同時開催され、CA プログラム同窓生が、研究発表を行う機会を設けている。これにより、同窓生の研究の発展を共有するとともに、留学年度を超えた各大学の留学生の交流の機会を確保している。さらに留学経験者が、留学希望者への情報提供を行う機会を設けることで、留学生同士の縦・横のつながりの拡充にも努めている。同窓会組織ネットワークの中で、短期留学としてプログラムに参加した学生が、中期、長期の学生として再度留学し、教育や研究の機会を深めるケースが増えている。その他卒業後に同窓生が積極的に同窓会ネットワークを活用したイベントを企画する例などが生まれている。現在の同窓会長は、CA プログラムの留学学生であり、卒業後事務局の特任助教を務めている。
- 3) 大阪大学医学部の医学科教育センターの教員、大学院医学系研究科の担当教授・教員、大学の国際交流担当部門、教務担当部門は連携して外務省、厚生労働省等の情報等を参考に、留学生の安否確認と対応への助言を迅速に行う体制を整えている。

【計画内容】

安全管理については、大阪大学のCA留学生支援センターが、上記の組織・体制並びに相手大学の留学生支援センターと協働して、継続的に連絡・情報共有をし、緊急時、災害時のリスク管理を行う。緊急時、災害時の学生安全確保・救済は最重要課題の一つである。現地大学関係者との協力と迅速な情報収集を可能にする、担当者とのホットライン、迅速な現地入りを検討できる体制構築を目指す。緊急時・災害時には、大阪大学の緊急対応体制に則り対策本部を立ち上げ、現地、安全衛生管理部、また総長・総括本部と連携を取り対応する。本学は危機管理対応マニュアルを策定し、緊急対応・災害時に役割分担のうえ速やかに対応できる体制を整えている。参加大学の担当教員、留学生支援部門と国際教員会議等の定期的な連絡体制と、学生個別のニーズに合わせた連絡調整を通し、学生の講義履修、留学プログラム参加の効果を最大化するサポート体制を拡充する。学生のプログラム参加に関する課題は基本的には、参加大学で構成する国際教員会議において協議し決定する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～②合わせて2ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

1) 他大学の学生も参加できる取組

大阪大学大学院医学系研究科修士課程では、2011年度より科目等履修生制度(8単位以上の履修を必須)を導入し、他大学の学生も授業を履修でき、単位認定を受けられる体制をとっている。その内の10単位は、正規の修士課程大学院学生の際の単位互換に利用できる。科目等履修生は毎年10～20名前後の実績があり、2016年度には新コース(医学統計学コース、未来臨床科学コース、医学倫理・研究ガバナンスコース)の開設に伴い、33名と大幅に増加した。

2) 大学の国際化に向けた戦略的な目標設定

本事業の事務総括は大阪大学本部事務機構の国際部であり、本事業取組学部・研究科とは、事務補佐員や研究科事務を通して常に連絡を取りあい、情報共有ができる体制にある。大学院医学系研究科教務室の教務係並びに学生支援係が、留学生のサポートの窓口となり、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、関係者間の調整を行っている。大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室と北京大学公衆衛生大学院との間で、「21世紀の複雑化する健康医療問題解決能力を有する文理融合型・問題解決型研究者の育成」を目標として、留学交流を2011年度から開始した。毎年、修士・博士課程大学院学生4～6名の受け入れと4～6名派遣(8～14日間)の派遣を継続して行っている。

また、2011年度より開始した博士課程リーディングプログラムである生体統御ネットワーク医学教育プログラムでは、生命科学研究において世界的に活躍する研究者及び各界リーダーの育成を目的とし、これまで20名の博士課程留学生の教育を行っている。

3) 招へいた外国人教員や学生とコミュニケーションが図れる事務職員の配置と事務体制の国際化

全学の取り組みとしては、マルチリンガル教育センターによる全職員を対象とした英語能力開発プログラムを開催し、英語力向上のための学習機会を提供している。特に2015年度より、全事務職員対象(35歳以下は必須)のTOEIC試験を学内にて実施し、英語能力向上に対するモチベーションを後押ししている。大学院医学系研究科教務室には、招へいた外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置している。

本事業の事務窓口は、大阪大学と海外の参加大学で設置するキャンパス・アジア(CA)事務局に設ける。事務局には英語でのコミュニケーションの能力を有する事務職員を配置し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、本事業運営上の関係者間の調整を、メール、電話、WEB会議、打ち合わせ会により密に行う。

4) 学習成果の可視化を推進するためのインフラとして成績証明書類等の電子化

成績証明書類の電子化発行は、まだ大学全体としては行われてはいない。現在、その第一歩としてコンビニエンスストア等での成績証明書等の発行に関して、全学で検討し準備を進めている段階にある。

成績証明書の電子化、電子発行のシステム等、学内のインフラ整備も進む予定である。

【計画内容】

CA国際教員会議(事業の概念図参照)において、事業の実施に伴う大学の国際化について十分な議論を進め、交流プログラム実施ガイドラインの中に、事業の意義及び方向性について明確に位置づける。

具体的には、海外の参加大学において、大阪大学と同様、CA事務局を設置し、教育の連携を継続する体制を整える。国際教員会議と時期を合わせて実施する国際シンポジウムは、本プログラムの計画・取組状況・成果・課題について参加大学のプログラム担当教員等が発表・議論する場であり、そこに国内外の大学・研究機関の学生、教員、産業界や行政機関の人々、幅広い対象者が参加できるようにする。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及**【実績・準備状況】**

本事業の HP(日本語、英語、各国の母国語)を開設し、交流プログラムの詳細、交流の実施状況、国際シンポジウムやセミナー等の関連イベントの周知・報告を掲載し、国内外への情報発信として活用した。また、事業の成果報告、外部評価の結果、関連報道は、国際シンポジウムや HP で随時公表し、資料の提供を行っている。国際シンポジウムでは、国内外の大学・研究機関、企業、行政機関へ広く周知し、学生、教員、産業界や行政機関の人々、一般人等の参加を募り毎年 100～200 名の参加があった。また、日本語教育に関する書籍『大学院留学生への研究支援と日本語教育 ―専門分野の違いを超えて―(仮)』(大阪大学出版会より出版準備中)の一章を CA 事務局教員が執筆し、一般に幅広く周知する機会となった。

【計画内容】

本プログラムの HP(日本語、英語、各国の母国語)を開設すると共に、海外学生への PR を本学海外拠点である東アジア拠点(中国・上海)及び ASEAN 拠点(タイ・バンコク)と連携し、きめの細かい情報を積極的に発信する予定である。またオンラインでのセミナーやセミナーにおける海外学生とのグループワーク等を通じて、より多く周知を促し、優秀な学生への認知を深め交流事業の更なる促進を行う。同窓会のネットワークを活用した情報発信は今後も継続し拡大する予定である。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	北京大学
① 交流実績（交流の背景）	
<p>・北京大学医学部・公衆衛生大学院担当教授と大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2016年度以降、北京大学公衆衛生大学院の修士・博士課程大学院学生の毎年3～8名の受け入れと大阪大学大学院医学系研究科の修士・博士大学院学生の毎年2～7名の派遣を継続して行っている。2019年度よりダブル・ディグリー・プログラム(DDP)により1名の派遣・1名の受け入れを行っている。北京大学担当教授は2016年度より現在まで継続して、大阪大学で開催される国際シンポジウム・教員会議に出席している。なお、担当教授は、2019年度より国立国際医療研究センター、グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)のセンター長を務めており、同研究センターとの交流を開始している。北京大学担当教授を大阪大学招へい教授として迎え、本学教授、准教授、助教が北京大学の招へい教員として講義や指導を行っている。</p> <p>・北京大学医学部生理学担当教授と大学院医学系研究科統合生理学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2017年度、北京大学公衆衛生大学院の博士課程大学院学生1名の受け入れと大阪大学大学院医学系研究科の学部学生を1名の派遣を行った。</p> <p>・北京大学医学部基礎医学担当教授と大学院医学系研究科生体システム薬理学代表教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2017年度、北京大学公衆衛生大学院の学部学生を2名受け入れた。</p> <p>・北京大学公衆衛生学院担当教授 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」の共同研究・講義のため、2019年11月より2か月間招へいした。</p> <p>・北京大学公衆衛生学院担当教授 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」にて開催される国際シンポジウム・教員会議に2016年度より毎年出席している。大阪大学招へい教授として、本学で講義や指導を行っている。</p> <p>・北京大学担当研究員 北京大学の疫学研究のフィールド担当者として、日本・中国の慢性疾患に関する疫学研究、健康教育推進に関する研究、たばこコントロール研究などの成果について、2018年度大阪大学大学院医学系研究科でセミナーを行い、学生への教育に携わった。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授は、北京大学医学部・公衆衛生大学院の社会医学・健康教育講座担当教授(副院長)と、本事業の内容、申請に関してメールと電話で打ち合わせを行い、英文のジョイント申請書の確認と、北京大学医学部・公衆衛生大学院の部局長の合意・承諾を得た。現在、北京大学の本部での最終確認を行っており、北京大学が中国の文部省へ中国側の大学代表として申請を行う予定である。</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科統合生理学担当教授は、北京大学医学部生理学担当教授と本事業の内容、申請に関してメールと電話で打ち合わせを行い、英文のジョイント申請書の確認し、合意・承諾を得た。北京大学の方針により、担当教授が Project Manager の代表としてサインすることに合意を得ている。</p> <p>国立国際医療研究センターとは、担当教授がセンター長を務める、グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)を中心にして、交流を開始している。学生の留学派遣期間中のインターンシップ、研究実習、グローバルヘルス実習に関するプログラムを中心に、今後の共同体制について合意を得ている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	清華大学
① 交流実績（交流の背景）	
<p>・清華大学生命科学院担当教授と大阪大学大学院医学系研究科遺伝学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2017年度、大阪大学学部学生1名を派遣し清華大学博士課程大学院学生を2名受け入れた。</p> <p>・清華大学生命科学院担当教授と大阪大学大学院医学系研究科病態病理学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2018年度、清華大学学部学生を1名受け入れた。</p> <p>・清華大学医学院担当教授と大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2019年度、清華大学博士課程大学院学生を1名派遣した。</p> <p>・清華大学医学院担当教授と大阪大学大学院医学系研究科免疫細胞生物学担当教授： 2010年度より老化に関わる免疫細胞動態に関する共同研究を推進しており、本事業に参画する用意は整っている。</p> <p>・清華大学公衆衛生大学院担当准教授 2020年11月に大阪大学主催で開催されたキャンパス・アジア(CA)ワークショップ、国際シンポジウム・教員会議に出席し、講義と講演を行った。大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室と生活習慣病予防と老化関連疾患に関する共同研究を行っている。</p> <p>・清華大学医学院公衆健康センター担当研究員 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」の共同研究・講義のため、2019年11月より1か月間招へいた。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>大阪大学大学院医学系研究科遺伝学担当教授は、清華大学生命科学院担当教授と、共同研究の打ち合わせのため、定期的に清華大学を訪問しており、本事業の内容、申請に関してメール等で打ち合わせを行い、担当教授が英文のジョイント申請書の確認と、清華大学生命科学院の部局長の合意、承諾を得ている。</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授は、清華大学公衆衛生・健康大学院院長、担当教授、准教授と、共同研究の打ち合わせをし、本事業の内容、申請に関してメール等で打ち合わせを行い、英文のジョイント申請書の確認と、清華大学公衆衛生・健康大学院の合意、承諾を得ている。</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科病態病理学担当教授は、清華大学医学院担当教授、准教授と、共同研究の打ち合わせのため、定期的に清華大学を訪問しており、本事業の内容、申請に関してメール等で打ち合わせを行い、担当教授が英文のジョイント申請書の確認と、清華大学医学院の部局長の合意、承諾を得ている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	上海交通大学
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>・上海交通大学医学院・アジア核医学学校担当教授と大阪大学大学院医学系研究科核医学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「核医学国際連携プログラム(国際原子力機構)」として、2014 年度より、認知症の予防・治療のための正常脳のイメージング像のデータベース構築のため、上海交通大学医学院の博士課程大学院学生 3 名の受け入れと、大阪大学大学院医学系研究科の博士課程大学院学生 1 名の派遣を行っている。放射性医薬品、画像解析ソフトウェアの開発について、研究会を毎年開催している。この成果を踏まえ、全アジアを対象としたワークショップを上海で 2016 年 5 月 6～7 日に開催し、大阪では 2016 年 5 月 23～27 日に開催した。</p> <p>・上海交通大学医学院 核医学担当教授と大阪大学大学院医学系研究科核医学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2016 年度、大阪大学大学院医学系研究科の博士課程大学院学生を1名派遣し、2018 年度上海交通大学医学院の博士課程大学院学生を受け入れた。</p> <p>・上海交通大学医学院医学生物情報科学センター担当教授と大阪大学大学院医学系研究科神経内科学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2019 年度、上海交通大学医学院の学部学生を受け入れた。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>大阪大学大学院医学系研究科核医学担当教授は、上海交通大学医学院・アジア核医学学校担当教授とメールにて、本事業の内容、申請に関して連絡を行った。講義と共同研究の打ち合わせのため上海交通大学を訪問した際に担当教授に詳細な説明を行い、英文のジョイント申請書について確認し、合意を得た。同教授は他大学の学長として今後転出予定であるとの事情から、代わりに大阪大学同部局担当教授が対応することとなっている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	天津中医薬大学
① 交流実績（交流の背景）	
<p>・天津中医薬大学中医薬学院院長と大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理学代表教授： 大阪大学大学院医学系研究科「中国国家留学基金」により、老化制御に関する新規漢方薬物有効成分探索に関する共同研究に関して、2017年度より、天津中医薬大学医学院の学部学生3名、修士課程大学院学生2名を受け入れた。受け入れ学生のうち1名が天津中医薬大学を卒業して、2018度には大阪大学大学院医学系研究科博士課程に入学した。</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2016・2017年度、大阪大学大学院医学系研究科の博士課程大学院学生と学部学生を各1名派遣し、2016～2018年度には、天津中医薬大学医学院の学部学生4名、修士課程大学院学生5名、博士課程大学院学生1名を受け入れた。</p> <p>・天津中医薬大学中医薬大学院担当教授と大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授： 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2019年度、天津中医薬大学医学院の学部学生1名、修士課程大学院学生2名、博士課程大学院学生1名を受け入れた。</p> <p>担当教授は大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」にて開催される国際シンポジウム・教員会議(2016年度)に出席した。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理学代表教授は、天津中医薬大学と本事業の内容、申請に関してメール等で打ち合わせを行い、英文のジョイント申請書の確認と合意・承諾を得た。学長も本事業に意欲的で、学長からの承諾もすでに得ている。現在進めている「中国国家留学基金」による交流は、学部生に限定されているので、本事業による修士課程・博士課程の大学院学生の交流への拡大は両大学にとって有意義な取組となる。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	広東薬科大学
① 交流実績（交流の背景）	
<p>・<u>広東薬科大学中医薬学院院長、担当教授と大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理代表教授</u>： 広東薬科大学中医薬大学院院長、担当教授は元天津中医薬大学中医薬大学院の副院長で、2019年天津から広東に異動した。広東薬科大学中医薬大学院院長と本学代表教授は2004年から老化制御に関する新規漢方薬物有効成分探索に関する共同研究を行い、共著論文の研究発表は日本薬理学会で受賞した。2020年2月から本学代表教授は広東薬科大学の招へい教授になり、学生への教育にも携わっている。広東薬科大学中医薬大学院院長は2016年から天津、広東の代表としてCAシンポジウム、教員会議、共同教育会議に出席した。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>広東薬科大学中医薬大学院院長は大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理学の代表教授と共同研究の打ち合わせのため、本事業の内容、申請に関してメール等で打ち合わせを行った。2021年7月7日、本学と広東薬科大学副学長、同中医薬学院院長、同国際交流センター長、同臨床医学院副院長など9名は、CAプラスの共同申請に関して会議を行い、広東薬科大学の合意、承諾を得ている。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	延世大学校
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>・延世大学校医科大学・公衆衛生学担当教授と大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学担当教授): 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2016～2020年度大阪大学大学院医学系研究科の学部学生2名、修士課程大学院学生3名、博士課程大学院学生11名を派遣し、2016～2020年度延世大学校医科大学の学部学生6名、修士課程大学院学生5名、博士課程大学院学生5名を受け入れている。</p> <p>延世大学校担当教授は2016年度より毎年大阪大学で開催される国際シンポジウム・教員会議に出席している。</p> <p>本学担当教授と延世大学校担当教授は、日本学術振興会 国際共同研究「二国間交流事業 共同研究・セミナー (韓国)」に採択されており、共同研究を進めている。なお、本学担当教授は、2019 年度より国立国際医療研究センター、グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)のセンター長を務めており、同研究センターとの交流を開始している。</p> <p>延世大学校担当教授を大阪大学招へい教授として迎え、本学教授が延世大学校の招へい教授として講義や指導を行っている。</p>	
<p>・延世大学校医科大学・保健環境大学院・医の法と倫理学担当教授と大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学担当教授: 大阪大学大学院医学系研究科「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として、2017・2018年度、延世大学校医科大学の博士課程大学院学生2名を派遣し、2017～2020年度、延世大学校医科大学の博士課程大学院学生3名を受け入れている。</p>	
<p>・延世大学校医科大学担当教授と大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学担当教授: 2007 年度より、Wnt シグナル異常による老化病態に関する共同研究を進めている。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>延世大学校とは、公衆衛生学講座担当教授と延世大学校教授(大阪大学招へい教授)と、延世大学校担当教授が、緊密に国際共同プログラム実施体制についての合意ならび、共同研究実施の体制を構築している。延世大学校担当教授とは、科学研究費補助金の2国間共同研究事業が採択されて、循環器疾患を中心とした生活習慣病予防の総合指標作成の研究を共同で進めている。一方、大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学担当教授は、延世大学校医科大学・保健環境大学院・医の法と倫理学教授と、大学院学生の受入について合意し、DDP 学生の学位取得を目指した研究指導を行っている。同大学副医学部長が取り纏め役として今後プログラム実施する計画である。</p>	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	マヒドン大学
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>・大阪大学大学院医学系研究科の協力講座としての微生物病研究所 2010年4月に文部科学省「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」の支援を得て、マヒドン大学熱帯医学部内にマヒドン・大阪感染症研究センターを設置して、熱帯感染症、特にデング熱・チクングニア熱等の蚊媒介性ウイルス感染症に関する共同研究を開始した。2015年4月からは、マヒドン大学熱帯医学部の大学院学生の研究指導を開始し、既に2名の博士号取得者を輩出して、1名は英国オックスフォード大学、もう1名はマヒドン大学熱帯医学部内で博士研究員として活躍している。毎年、大阪大学医学部の基礎医学配属学生2~3名をマヒドン大学熱帯医学部に1~3週間滞在させ、附属の熱帯病院でのデング熱・チクングニア熱の臨床研修や近隣のHIV・結核病棟の見学、マヒドン・大阪感染症研究センターでの蚊媒介性ウイルス感染症の診断や研究の実習を行い、早い時期からの国際性を涵養させている(2020年はオンラインで実施)。また、マヒドン大学熱帯医学部の大学院学生や共同研究を行っている他の教室(臨床熱帯医学科、微生物免疫学科、医学寄生虫学科、熱帯栄養学科)の大学院学生を1ヶ月程度日本に招致して、微生物病研究所内で感染症学・免疫学の実習を行っている。</p> <p>・マヒドン大学・Ramathibodi 看護学部学部長と大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻担当教授 Ramathibodi School of Nursing, Mahidol Univ.の所属施設であるPrasat Neurological Institute and Day Care Centerを2016年に、Srithunya hospitalを2017年に訪問し、両施設の医療スタッフと高齢者の看護・介護に関する研究交流のための意見交換を行った。マヒドン大学熱帯医学部が主催する国際学会 Joint International Tropical Medicine Meeting では、毎年、微生物病研究所の教授がプログラム委員を務め、2~3題の演題をマヒドン大阪感染症研究センターから発表して来ている。2018年には、2名の博士課程在籍者が Young investigator Award の1位と2位を獲得した。2019~2021年に School of Nursing, Mahidol Univ.の卒業生であるタイ人留学生に対して、保健学専攻博士後期課程で研究指導をし、看護学博士を取得させた実績がある。</p> <p>・マヒドン大学・Ramathibodi 看護学部学部長と大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻担当教授 2019年度、先方の修士課程大学院学生4名、教員1名を受け入れ、大阪大学医学部附属病院看護部と共同で「日本とタイの看護教育・看護実践の現状と課題」に関する研修会を開催して、MOU締結を視野に入れ、医学部保健学科および Faculty members の研究テーマの紹介、共同研究プログラム案について意見交換を行った。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>マヒドン大学・Ramathibodi 看護学部学部長と大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻担当教授との協議で、2021度に部局間においてMOUを締結し、オンラインを含む短期の研究交流を、修士課程・博士課程の大学院学生を対象に行い、2022年度から博士課程での共同学位プログラム締結に向けた準備を進めている。マヒドン大学の熱帯医学部とは、今後も上記の教育・研究は活動を拡充するため、2020年1月に微生物病研究所教授が、主要な共同研究者でもあるマヒドン大学熱帯医学部学部長、教育担当副学部長、国際関係担当副学部長らと面談し、大阪大学大学院医学系研究科との博士課程のDDPの可能性について議論した。タイと日本の学制に基本的な違いがないことから、大阪大学大学院医学系研究科との博士課程のDDPはマヒドン大学側にも大きなメリットをもたらすものであることが確認され、DDP制度について具体的に詰めていく予定である。</p>	

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画
【2021年度(申請時の準備状況も記載)】

大阪大学大学院医学系研究科キャンパス・アジア(CA)事務局より申請する。大学院医学系研究科の執行部会です承を得て、大学院医学系研究科の全教室への周知、前期5年間の学生交流や共同研究の実績についての報告を行った。継続事業のため、前期5年間の実績に基づくとともにCAプラスに際して新しい展開を見据えた申請書を準備した。同時に中国・韓国・タイ王国の参加大学で学生交流のカウンターパートとなる教授とメール、電話、WEBによる打ち合わせを行い、合同の英文申請書を作成した。協議の結果、本事業継続と連携機関ならびにプログラムの拡大(国立国際医療研究センター、中国広東薬科大学、タイ王国マヒドン大学)の同意を得た。

【2022年度】

- 1) 中国、韓国、タイ王国、日本の事業継続大学の教員、サポート体制の再編と確認
- 2) 日本の国立国際医療研究センター、中国の広東薬科大学、タイ王国のマヒドン大学の事業体制の構築、交流協定書とMOUの締結
- 3) 国際シンポジウム、国際教員会議の開催
- 4) HPの更新(日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語についてはそれぞれの大学HPで掲載)
- 5) 新規参加大学とのプログラム実施ガイドラインの骨子作成
- 6) 新規参加大学とのシラバス・単位認定の確認
- 7) 派遣学生の書類・面接試験の実施、認定、派遣
- 8) 2023年事業計画の立案、確認、承認
- 9) 留学終了者の報告会の開催と発表、英文報告書、留学先の教員評価等による成績判定
- 10) 外部評価委員会の開催
- 11) 報告書の作成と公開

【2023年度】

- 1) 国際シンポジウム、国際教員会議の開催
- 2) HPの充実・改訂
- 3) プログラム実施ガイドラインの詳細決定
- 4) シラバス、単位認定の改訂・充実
- 5) 派遣学生の書類・面接試験の実施、認定、派遣
- 6) 2024年度の事業計画の立案、確認、承認
- 7) 留学終了者の報告会の開催と発表、英文報告書、留学先の教員評価等による成績判定
- 8) 外部評価委員会の開催
- 9) 報告書の作成と公開

【2024年度】

- 1) 国際シンポジウム、国際教員会議の開催
- 2) HPの充実・改訂
- 3) プログラム実施ガイドライン詳細の決定
- 4) シラバス、単位認定の改訂・充実
- 5) 派遣学生の書類・面接試験の実施、認定、派遣
- 6) 2025年度の事業計画の立案、確認、承認
- 7) 留学終了者の報告会の開催と発表、英文報告書、留学先の教員評価等による成績判定
- 8) 外部評価委員会の開催
- 9) 報告書の作成と公開

【2025年度】

事業のまとめ、最終報告書の作成、自走化の調整と準備
 その他は2024年度と同様

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

参加大学は、交流プログラムの自己評価と継続的な質の向上を図るため内部保証システムを構築し、情報を共有する。具体的には、短期・中期留学生に対する学生評価システムにより、参加学生は交流の終わる段階で最終発表を行い、受入教室の教員は発表評価票と CA 学生評価票で学生を評価する。

交流目標を達成した学生には CA プログラム修了証明書を授与する。学生は留学後に、交流レポート、自己評価と交流満足度調査票、JASSO 奨学金満足度調査票(JASSO 留学生のみ)を CA 事務局に提出し、CA 事務局は交流の満足度と意見を聴取、整理し、国際教員会議に報告する。

外部評価システムはすでに構築・運用されている。大阪大学では年 1 回外部評価委員会を開催し、大学、企業、行政機関等の人材から成る委員からの評価を受けて、交流プログラムの改善・充実を図っている。

プログラムの大幅な改訂については、国際教員会議にプログラムの改訂の合意を得て改定を行い、プログラムの改善を図る。

③ 補助期間終了後の事業展開

大阪大学医学部・大学院医学系研究科においては、アジアを拠点とした教育研究のコンソーシアムを恒久的に構築し、それを足場にさらに欧州、米国、アジア諸国の大学・研究機関や、国際行政機関との連携を深め、世界的な健康問題の解決に貢献するグローバルヘルス・リーダーを輩出することが、今後の最重要課題の一つであるとの認識がある。

大学院医学系研究科において 2014 年に国際未来医療学講座を新設し、わが国の医学のグローバル化を進めるための教育(健康・医療イノベーション学)を全学の学生を対象に実施していることにはその背景がある。2015 年度からは、公衆衛生学教室が窓口となり、大学院医学系研究科博士課程の学生を毎年 2 名、3～6 ヶ月間派遣する WHO インターナシッブ・プログラムに 3 名の学生を派遣している。また同年度に、医学・医療の世界展開と国際交流を一層進めるため、医学部・大学院医学系研究科と附属病院が一体となったグローバルヘルス・イニシアティブ機構を立ち上げ、学生・大学院学生、医員の派遣、受け入れの調整と拡大を図っている。

本 CA 事業は、これらの国際化への教育体制の土壌の上での実施となる。本事業の第一期の 5 年間では、医学・公衆衛生学分野において、交流学生の数は 162 名に達し、国際単位交換・承認制度の作成と実行、さらにわが国初の医学博士課程 DDP 制度を確立した。事業の ASEAN への拡大に関して、マヒドン大学とは両大学の医学部学生 4～5 名の派遣・交流(10 日間)を 30 年前より毎年継続していると共に、大阪大学大学院医学系研究科が連携する微生物病研究所の研究拠点がマヒドン大学とタイの保健省に設置され、活発な共同研究が進められている。今回の CA プラスの取組により、将来グローバルに活躍する人材を大きく広げる基盤となる。

本事業の補助期間終了後は、構築した CA の元に、世界の健康問題解決のためのグローバルな研究者に加えて、世界のニーズを見据えた研究成果や適正技術の普及に貢献する人材(健康関連国際企業の幹部、WHO・UNICEF 等の国際行政機関の幹部等)の育成への継続・発展につなげることを目指している。そのため中国、韓国、タイ王国に加えて、他の ASEAN 諸国、欧州、オセアニア、米国の大学との連携へと発展させる計画である。

大阪大学大学院医学系研究科はそのための基盤を有している。たとえば、スウェーデンのカロリンスカ研究所との MOU の基に、2014 年度から修士課程大学院学生の派遣・受入(それぞれ毎年 1～2 名)を行うと共に、両大学において国際シンポジウムを 1～2 年ごとに開催している。一方で、カロリンスカ研究所は中国・韓国の大学とも精力的に共同研究を行っており、欧州と東アジアがつながることとなる。また、さらに、2014 年度には、オーストラリアのメルボルン大学をはじめとする大学連合と MOU を結び、2016 年度に教育研究の交流のための国際シンポジウムの開催を予定した。APRU グローバルヘルス・プログラムの主幹大学である、米国のカルフォルニア大学ロサンゼルス校、南カルフォルニア大学とは、2015 年度の大阪大学大学院医学系研究科での APRU グローバルヘルス・ワークショップの主幹を契機として、毎年若手研究者のワークショップを共催している。

以上の交流・基盤を活用することで、本事業の補助期間終了後においても、組織改編や留保ポスト等の活用や外部資金の獲得により教員ポストの配置や事務体制の継続を行える見通しは大きく、本事業の継続・発展につながると期待される。

また、CA の恒常的な教育研究体制構築のためは、海外の参加大学においても補助期間終了後は、CA の担当教員ポストの確保や事務体制の継続を図る。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

大学院医学系研究科が有する国際教育基金や公開講座・セミナー等の収入を事務諸経費に充当する。学生の留学資金は、大阪大学医学部学友会の岸本基金奨学助成金及び大学院医学系研究科の独自基金(岸本国際交流奨学金等)により賄える見込みである。同時に、国内外の留学奨学金の応募・獲得を積極的に進めてゆく。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2021年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,500	5,200	6,700	
	①設備備品費				
	②消耗品費	1,500	5,200	6,700	
	・事務用品一式		1,200	1,200	様式4①②
	・書籍・資料等		400	400	様式4①②
	・統計解析 10ライセンス×@100千円	500	500	1,000	様式4①②
	・ソフトウェア一式 10×@100千円	1,000		1,000	様式4①②
	・学習環境整備費		3,100	3,100	様式4①②
	[人件費・謝金]	9,500	1,300	10,800	
	①人件費	9,500		9,500	
	・特任准教授（常勤） 1人×@3,500千円	3,500		3,500	様式1⑤.3①②
	・特任助教（常勤） 1人×@3,000千円	3,000		3,000	様式1⑤.3①②
	・事務補佐員（非常勤） 3人×@1,000千円	3,000		3,000	様式3①②
	②謝金		1,300	1,300	
	・国際シンポジウム 20人×@20千円		400	400	様式4①②
	・国際セミナー 20人×@20千円		400	400	様式4①②
	・TA経費 5人×@100千円		500	500	様式3②
	[旅費]		1,600	1,600	
	・外部評価委員会 4人×@50千円		200	200	様式2④
	・教員視察・打合せ 4人×@100千円		400	400	様式4①②
	・国際シンポジウム（招聘旅費）				
	中国から 4人×@200千円		800	800	様式4①②
	韓国から 1人×@200千円		200	200	様式4①②
	[その他]	4,800	1,500	6,300	
	①外注費	930		930	
	・HP保守料	100		100	様式4②
	・オンラインセミナー 2×@150千円	300		300	様式4①②
	・英文翻訳費	530		530	様式4①②
	②印刷製本費		100	100	
	・報告書作成費		100	100	様式4②
	③会議費		200	200	
	・国際教員会議（大阪） 1回×1日		100	100	様式4①②
	・外部評価委員会（大阪） 1回×1日		100	100	様式2④
	④通信運搬費	100		100	
	・郵送代	100		100	様式4①②
	⑤光熱水料				
	⑥その他（諸経費）	3,770	1,200	4,970	
	・外国旅費				
	学生（派遣） 900	900		900	様式3①
	学生（受入） 900	900		900	様式3②
	・宿舎借上げ				
	学生（派遣） 620	620		620	様式3①
	学生（受入） 1,350	1,350		1,350	様式3②
	・オフィス使用料		1,200	1,200	様式4①②
2021年度	合計	15,800	9,600	25,400	

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2022年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			1,600	1,600	
①設備備品費					
②消耗品費			1,600	1,600	
・事務用品一式			200	200	様式4①②
・書籍・資料等			100	100	様式4①②
・ソフトウェア一式 5×@100千円			500	500	様式4①②
・学習環境整備費			800	800	様式4①②
[人件費・謝金]		12,000	400	12,400	
①人件費		12,000		12,000	
・特任准教授(常勤) 1人×@6,000千円		6,000		6,000	様式1⑤.3①②
・特任助教(常勤) 1人×@3,000千円		3,000		3,000	様式1⑤.3①②
・事務補佐員(非常勤) 2人×@1,500千円		3,000		3,000	様式3①②
②謝金			400	400	
・国際シンポジウム 20人×@10千円			200	200	様式4①②
・TA経費 2人×@100千円			200	200	
[旅費]			2,400	2,400	
・外部評価委員会 4人×@50千円			200	200	様式2④
・教員視察・打合せ 4人×@100千円			400	400	様式4①②
・国際シンポジウム(招聘旅費)					
中国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
韓国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
タイから 1人×@200千円			200	200	様式4①②
[その他]		2,220	5,600	7,820	
①外注費		220	300	520	
・HP保守料 100				100	様式4②
・オンラインセミナー 2×@150千円			300	300	様式4①②
・英文翻訳費 120				120	様式4①②
②印刷製本費			100	100	
・報告書作成費			100	100	様式4②
③会議費			200	200	
・国際教員会議(大阪) 1回×1日			100	100	様式4①②
・外部評価委員会(大阪) 1回×1日			100	100	様式2④
④通信運搬費			100	100	
・郵送料			100	100	様式4①②
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)		2,000	4,900	6,900	
・外国旅費					
学生(派遣) 1,000				1,000	様式3①
学生(受入) 1,000				1,000	様式3②
・宿舎借上げ					
学生(派遣) 940				940	様式3①
学生(受入) 2,400				2,400	様式3②
・オフィス使用料 1,200				1,200	様式4①②
・教員の国際会議滞在費 9人×40千円 360				360	様式4①②
2022年度		合計	14,220	10,000	24,220

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2023年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			1,773	1,773	
①設備備品費					
②消耗品費			1,773	1,773	
・事務用品一式			173	173	様式4①②
・書籍・資料等			200	200	様式4①②
・ソフトウェア一式 2×@100千円			200	200	様式4①②
・学習環境整備費			1,200	1,200	様式4①②
[人件費・謝金]		12,000	400	12,400	
①人件費		12,000		12,000	
・特任准教授(常勤) 1人×@6,000千円		6,000		6,000	様式1⑤.3①②
・特任助教(常勤) 1人×@3,000千円		3,000		3,000	様式1⑤.3①②
・事務補佐員(非常勤) 2人×@1,500千円		3,000		3,000	様式3①②
②謝金			400	400	
・国際シンポジウム 20人×@10千円			200	200	様式4①②
・TA経費 2人×@100千円			200	200	様式3②
[旅費]			2,550	2,550	
・外部評価委員会 3人×@50千円			150	150	様式2④
・教員視察・打合せ 6人×@100千円			600	600	様式4①②
・国際シンポジウム(招聘旅費)					
中国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
韓国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
タイから 1人×@200千円			200	200	様式4①②
[その他]		798	5,277	6,075	
①外注費			200	200	
・HP保守料			100	100	様式4②
・英文翻訳費			100	100	様式4①②
②印刷製本費			100	100	
・報告書作成費			100	100	様式4②
③会議費			100	100	
・外部評価委員会(大阪) 1回×1日			100	100	様式2④
④通信運搬費			100	100	
・郵送料			100	100	様式4①②
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)		798	4,777	5,575	
・外国旅費					
学生(派遣)			800	800	様式3①
学生(受入)		798	2	800	様式3②
・宿舍借上げ					
学生(派遣)			900	900	様式3①
学生(受入)			1,875	1,875	様式3②
・オフィス使用料			1,200	1,200	様式4①②
2023年度		合計	12,798	10,000	22,798

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2024年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			1,790	1,790	
①設備備品費					
②消耗品費			1,790	1,790	
・事務用品一式			290	290	様式4①②
・書籍・資料等			200	200	様式4①②
・ソフトウェア一式 2×@100千円			200	200	様式4①②
・学習環境整備費			1,100	1,100	様式4①②
[人件費・謝金]		10,000	400	10,400	
①人件費		10,000		10,000	
・特任准教授(常勤) 1人×@5,000千円		5,000		5,000	様式1⑤.3①②
・特任助教(常勤) 1人×@3,000千円		3,000		3,000	様式1⑤.3①②
・事務補佐員(非常勤) 2人×@1,000千円		2,000		2,000	様式3①②
②謝金			400	400	
・国際シンポジウム 20人×@10千円			200	200	様式4①②
・TA経費 2人×@100千円			200	200	様式3②
[旅費]			2,550	2,550	
・外部評価委員会 3人×@50千円			150	150	様式2④
・教員視察・打合せ 6人×@100千円			600	600	様式4①②
・国際シンポジウム(招聘旅費)					
中国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
韓国から 4人×@200千円			800	800	様式4①②
タイから 1人×@200千円			200	200	様式4①②
[その他]		1,518	5,260	6,778	
①外注費			338	338	
・HP保守料			200	200	様式4②
・英文翻訳費			138	138	様式4①②
②印刷製本費			100	100	
・報告書作成費			100	100	様式4②
③会議費			100	100	
・外部評価委員会(大阪) 1回×1日			100	100	様式2④
④通信運搬費			100	100	
・郵送代			100	100	様式4①②
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)		1,518	4,622	6,140	
・外国旅費					
学生(派遣)		800		800	様式3①
学生(受入)		718	82	800	様式3②
・宿舎借上げ					
学生(派遣)			940	940	様式3①
学生(受入)			2,400	2,400	様式3②
・オフィス使用料			1,200	1,200	様式4①②
2024年度	合計	11,518	10,000	21,518	

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2025年度> 経費区分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]			2,310	2,310	
①設備備品費					
・					
②消耗品費			2,310	2,310	
・事務用品一式			210	210	様式4①②
・書籍・資料等			200	200	様式4①②
・ソフトウェア一式 2×@100千円			200	200	様式4①②
・学習環境整備費			1,700	1,700	様式4①②
[人件費・謝金]		9,000	400	9,400	
①人件費		9,000		9,000	
・特任准教授(常勤) 1人×@5,000千円		5,000		5,000	様式1⑤.3①②
・特任助教(常勤) 1人×@3,000千円		3,000		3,000	様式1⑤.3①②
・事務補佐員(非常勤) 1人×@1,000千円		1,000		1,000	様式3①②
②謝金			400	400	
・国際シンポジウム 20人×@10千円			200	200	様式4①②
・TA経費 2人×@100千円			200	200	様式3②
・					
[旅費]			1,450	1,450	
・外部評価委員会 3人×@50千円			150	150	様式2④
・国際シンポジウム(招聘旅費)					
中国から 8人×@100千円			800	800	様式4①②
韓国から 3人×@100千円			300	300	様式4①②
タイから 1人×@200千円			200	200	様式4①②
・					
[その他]		1,366	5,840	7,206	
①外注費		206	100	306	
・HP保守料			100	100	様式4②
・英文翻訳費		206		206	様式4①②
・					
②印刷製本費			100	100	
・報告書作成費			100	100	様式4②
③会議費			200	200	
・国際教員会議(大阪) 1回×1日			100	100	様式4①②
・外部評価委員会(大阪) 1回×1日			100	100	様式2④
・					
④通信運搬費			100	100	
・郵送料			100	100	様式4①②
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		1,160	5,340	6,500	
・外国旅費					
学生(派遣) 800		800		800	様式3①
学生(受入)			800	800	様式3②
・宿舎借上げ					
学生(派遣) 940			940	940	様式3①
学生(受入) 2,400			2,400	2,400	様式3②
・オフィス使用料 1,200			1,200	1,200	様式4①②
・教員の国際会議滞在費 9人×40千円 360		360		360	様式4①②
2025年度	合計	10,366	10,000	20,366	

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)	北京大学		国名	中国	
	(英)	Peking University				
設 置 形 態	副部級大学（単科大学の複合体）		設 置 年	1898		
設 置 者（学長等）	清朝政府により、隋代に起源を持つ北京国子監を近代化した京師大学堂として、北京に設立					
学 部 等 の 構 成	理学部/情報科学及び工学部/人文学部 /社会科学部 /医学部/元培学院/深圳大学院					
学 生 数	総数	46,113人	学 部 生 数	16,372人	大学院生数	29,741人
受け入れている留学生数	約3,700人		日本からの留学生数	約350人		
海外への派遣学生数	約620人		日本への派遣学生数	約100人		
Webサイト（URL）	https://www.pku.edu.cn/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)	清華大学		国名	中国	
	(英)	Tsinghua University				
	副部級大学（国家重点大学）	設 置 年	1911年			
設 置 者（学長等）	セオドア・ルーズベルト大統領が義和団の乱の賠償金を引き下げて捻出した資金から1911年（明治44年）に設立された清華学堂が起源					
学 部 等 の 構 成	建築学院/土木水利学院/機械工程学院/航天航空学院/音信科学技術学院/理学院 /生命科学学院/電気工程応用電子技術系/環境科学と工程系/材料科学と工程系/工程物理系/化学工程系/交差音信研究院/経済管理学院 /公共管理学院/マルクス主義学院/人文社会科学学院 /法学院/新聞と情報学院/美術学院/医学院 /原子力と新エネルギー技術研究院/体育部/芸術教育センター/深圳研究生院/継続教育学院/公衆衛生・健康学院					
学 生 数	総数	53,302人	学部生数	16,287人	大学院生数	37,015人
受け入れている留学生数	3,240人	日本からの留学生数	約260人			
海外への派遣学生数	約520人	日本への派遣学生数	約90人			
Webサイト（URL）	https://www.tsinghua.edu.cn/index.htm					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)	上海交通大学		国名	中国	
	(英)	Shanghai Jiao Tong University				
設 置 形 態	国立総合大学		設 置 年	1896年		
設 置 者 (学 長 等)	盛宣懐が上海に創設した南洋公学を起源。現校長はLin Zhongqin					
学 部 等 の 構 成	経済学/法学/文学/理学/工学/農学/医学/管理学/芸術					
学 生 数	総数	42,707人	学 部 生 数	16,351人	大学院生数	22,822人
		2,837人	日 本 からの 留 学 生 数	約40人		
海 外 への 派 遣 学 生 数	約1,000人	日 本 への 派 遣 学 生 数	約40人			
W e b サ イ ト (U R L)	http://www.sjtu.edu.cn/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)	天津中医薬大学		国名	中国	
	(英)	Tianjin University of Traditional Chinese Medicine				
	国立	設 置 年	1958			
設 置 者 (学 長 等)	中国・教育部により設置され、現在の学長はGao Xiumei					
学 部 等 の 構 成	12学院（中医学院・中薬学院・中西医结合学院・中薬製薬工程学院・針灸学院・看護学院・管理学院・言語文化学院・体育健康学院・国際教育学院・卒後継続教育学院・大学院研究科）、4学部（一般教育部、社会科学部、実験教育部、臨床研修教育部）、2研究所（中医薬研究院、中医医学工程研究所）、および3附属病院からなる。					
学 生 数	総数	11,530人	学部生数	7,790人	大学院生数	3,740人
受け入れている留学生数	2,140人	日本からの留学生数	約60人			
海外への派遣学生数	約20人/年	日本への派遣学生数	約10人/年			
Webサイト（URL）	http://www.tjutcm.edu.cn					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) 広東薬科大学		国 名	中国		
	(英) Guangdong Pharmaceutical University					
設 置 形 態	国立	設 置 年	1958			
設 置 者 (学 長 等)	中国・教育部により設置され、現在の学長はGuo Jiao					
学 部 等 の 構 成	薬科学、公共衛生学、臨床医学、基礎学、漢方薬学、医薬商学、医薬経済学、医薬情報工学、生命科学・生物製薬学、看護学、食品科学、医薬化学、健康学、外国語、継続教育学、国際教育学、マルクス主義学					
学 生 数	総数	22,390人	学部生数	20,690人	大学院生数	1,700人
受け入れている留学生数	約140人	日本からの留学生数	約5人			
海外への派遣学生数	約20人	日本への派遣学生数	約5人			
	https://spc.jst.go.jp/education/univ/univ_431.html					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)延世大学校		国名	韓国		
	(英)Yonsei University					
設 置 形 態	私立大学	設 置 年	1885			
設 置 者 (学 長 等)	Seoung Hwan Suh					
学 部 等 の 構 成	大阪大学					
学 生 数	総数	39,314人	学部生数	27,245人	大学院生数	12,069人
受け入れている留学生数	1,519人	日本からの留学生数	85人			
海外への派遣学生数	1,053人	日本への派遣学生数	19人			
Webサイト(URL)	http://www.yonsei.ac.kr/sc/index.jsp					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)マヒドン大学		国名	タイ王国		
	(英)Mahidol University					
設 置 形 態	国立	設 置 年	1943年			
設 置 者 (学 長 等)	Prof. Banchong Mahaisavariya					
学 部 等 の 構 成	Faculty of Dentistry, Faculty of Engineering, Faculty of Environment and Resource Studies, Faculty of Graduate Studies, Faculty of Information and Communication Technology (ICT), Faculty of Liberal Arts (LA), Faculty of Medical Technology (MT), Faculty of Medicine Ramathibodi Hospital (RAMA), Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Faculty of Nursing, Faculty of Pharmacy, Faculty of Physical Therapy, Faculty of Public Health, Faculty of Science, Faculty of Social Sciences and Humanities, Faculty of Tropical Medicine, Faculty of Veterinary Science, ASEAN Institute for Health Development, Institute for Innovative Learning, Institute of Molecular Biosciences, Institute of Nutrition, Institute for Population and Social Research, Institute for Technology and Innovation Management, National Institute for Child and Family Development, Research Institute for Languages and Cultures of Asia, Analytical Sciences and National Doping Test Institute, College of Management, College of Music, College of Religious Studies, College of Sports Science and Technology, Mahidol University International College, Ratchasuda College, National Laboratory Animal Center					
大阪大学	総数	29,165人	学部生数	20,707人	大学院生数	8,458人
受け入れている留学生数	1,466人	日本からの留学生数	約50人			
海外への派遣学生数	約1,000人	日本への派遣学生数	約50人			
Webサイト(URL)	https://mahidol.ac.th/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名

大阪大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。

※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。

※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中華人民共和国	1226	1565
2	大韓民国	249	277
3	インドネシア共和国	131	162
4	タイ王国	105	141
5	台湾	92	124
6	ベトナム社会人民共和国	82	98
7	インド	41	53
8	フィリピン共和国	41	49
9	マレーシア	39	52
10	ブラジル連邦共和国	34	35
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) アメリカ合衆国、フランス共和国等	554	805
留学生の受入人数の合計		2594	3361
全学生数		24451	
留学生比率		10.6%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	オーストラリア連邦	モナシュ大学	61
2	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学	44
3	オランダ王国	グローニンゲン大学	26
4	中華人民共和国	大連理工大学	24
5	オーストラリア連邦	マッコーリー大学	23
6	中華人民共和国	上海交通大学	20
7	インドネシア共和国	ガジャマダ大学	19
8	タイ王国	シラパコーン大学	17
9	ベトナム社会人民共和国	ベトナム国家大学	17
10	ドイツ連邦共和国	ハイデルベルク大学	16
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) インド、ロシア、イタリア等	(主な大学名) ティラク・マハーラーシュトワ大学、モスクワ国立大学、シエナ外国人大学等	1062
	計 60 カ国	計 608 校	
派遣先大学合計校数		618	
派遣人数の合計			1329

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CA プラス)

大学等名	大阪大学
------	------

③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）

※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。

※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数それぞれ記入。
（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）

全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
3292	34	68	44	117	0	263	8%
うち専任教員 （本務者）数	8	20	16	36	0	80	

○スーパーグローバル
大学創成支援事業

大阪大学

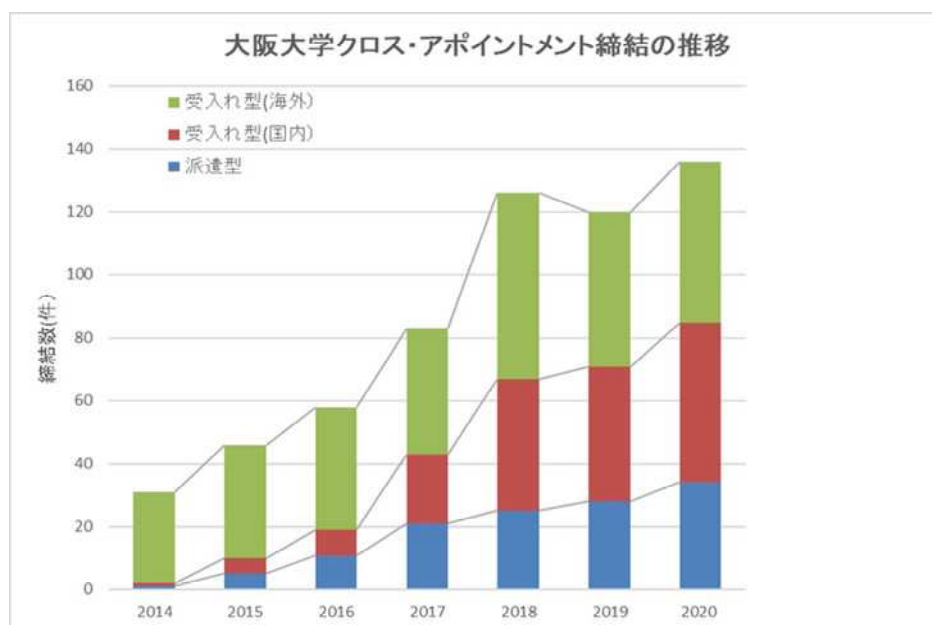
④取組の実績 【4ページ以内】

○国際公募について

大阪大学では、平成26年7月に「大阪大学教員等の採用における国際公募ガイドライン」を制定し、教員について、可能な限り国際公募とするよう定めているほか、経営企画オフィスUR A部門による「国際公募手続き支援制度」を実施してきた。その結果として、令和2年度の国際公募の実施割合は【98.4%】に達している（経営企画オフィス調べ）。なお、以前からWEB面接などを実施していたが、令和2年度の途中から、応募書類のWEB受付を原則とすることを学内に周知し、海外在住者が応募しやすい環境を整えている。

○外国人の積極雇用の取組等について

外国人教員雇用支援事業や国際共同研究促進プログラムなど、外国人教員の雇用に対する人件費支援を継続的に実施し、国内機関・海外機関との間でのクロス・アポイントメント制度に関する協定を数多く締結している。



○テニュアトラック制度について

テニュアトラック制度を学内に普及させるための全学的組織である「大阪大学若手研究者育成ステーション」の機能強化（平成28年度）や、クロス・アポイントメント制度や評価連動型年俸制の導入（平成25年度）などの人事・給与制度の柔軟化を行っている。

○評価連動型年俸制について

評価連動型の年俸制については、現年俸制の新規適用にかかる措置が平成30年度で終了したこと等を受けて、国の制度設計を踏まえた検討を行なった。その結果、厳格な業績評価の結果を適切に処遇に反映させることにより、インセンティブを高め、優れた人材の確保及び教育研究活動の活性化を図ることを目的とする新しい年俸制（新年俸制）の導入を令和3年4月から施行している（通知：新年俸制教職員給与規定等の施行に伴う教員の採用等における給与制度の適用に関する取り扱いについて）。原則としてそれ以降に採用となる教員については新年俸制を適用している。

以上のような取り組みにより、優秀な教員を国内外から採用するための体制を構築している。

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CA プラス)

○事務体制の国際化について

①海外機関等との折衝、外国人教員や留学生等への対応のため語学力を必要とする業務には、海外での研修や就業経験等を有する語学力が堪能な者を採用・配置している。また、海外拠点へ事務職員を配置している。

②国際感覚を備えた職員の育成並びに語学力向上を目的に学内外の研修等を活用し人材育成に努めている。また、学内諸規程を英文化し、国際化対応のための職場環境整備を行っている。

■語学等に関する職員の研修プログラム等の取組実績

- ・事務国際化研修（沖縄科学技術大学院大学へ派遣）【令和3年度 1名】
- ・文部科学省国際業務研修 【令和3年度 2名】

- ・日本学術振興会国際協力員 【令和3年度 1名】

- ・TOEIC受験 【令和元年度 150名・令和2年度 102名】

(R2.10.1付け「令和2年度学内TOEICテストの実施等について」)

- ・英語研修 【令和2年度 26名】

(R2.6.25付け「令和2年度大阪大学英语研修の実施について」)

■国際化対応のための職場環境整備

・外国人教職員が活躍し得る職場環境整備のために就業規則、人事関係規程、各種通知等の英文化を実施している。

○英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築

大阪大学では、英語による授業だけで学位が取得できるコースとして、令和3年度時点で、学部レベルでは1コース、大学院レベルでは43コースを開設している。特に学部レベルの英語コースの開講科目は日本人学生も受講可能である。

また、海外の大学と連携し質の高い高等教育を提供するため、平成24年に「大阪大学におけるダブルディグリーに関するガイドライン」を制定し、平成28年度の改訂を経て、令和3年5月時点では55件のダブル・ディグリー・プログラムを実施している。また、大学院言語文化研究科/外国語学部では、外国人教員が多いこともあり、専攻言語のみで行われる授業や、専攻言語と英語のみで行われる授業が通常科目の中にも多数含まれている。

○厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化

大阪大学は、教育目標を定め、それに基づくディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを策定し体系的なカリキュラムとしている。成績管理について、学生に「S・A・B・C・F」の5段階評価と学部についてはGPAを提示することで、自身の学習の到達度を認識させ、十分な予習復習等の自主学習を促すようにしている。またシラバスについては、本学の学務情報システムであるKOAN（英語化完備）において、全学統一フォーマットに基づき、授業の目的や成績評価方法等を明示しているほか、授業内容についての小レポートや小テストを行い成績評価に組み込むことを明示して、履修科目を自主的に学習させるようにしている。ガイダンスやクラス担任教員、指導教員、ガイダンス室での相談等による履修指導を行うことで、適正な履修を促している。教員の多くは、メールやCLEも利用して学生からの質問に応じるなど、単位の実質化を図っている。

(大学名： 大阪大学) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	大阪大学
------	------

⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	大阪大学
整理番号	A09
構想名	GLOBAL UNIVERSITY「世界通塾」

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本構想は、「世界通塾」理念のもとにOUビジョン2021を示し、大学と社会の共創を軸に、「社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学」を目指している。学長のリーダーシップによる明確な方針のもとで、教育・研究強化、国際化、ガバナンスの強化について進展が実現している。クロス・アポイントメント制度の利用等により、著名な教員を海外から受け入れ、教育・研究の活性化、産学連携を推進している。その結果、外国籍教員数は平成26年度から令和元年度の間約2.5倍に増加している。令和3年度には、教員について、新規採用者全員に新年俸制を適用する。</p> <p>海外留学生受入数、国際共著論文比率が増加している。さらに、産学連携の進展にも繋がったことは高く評価できる。語学力基準を明確にした職員採用の結果、TOEIC IPテストの成績が向上するなど、職員の外国語能力を高め、国際性の向上に寄与している。</p> <p>大規模公開オンライン講座の配信を平成26年度に開始、令和2年度には3.6倍の、約9万名が受講しており、講義内容等を分析することにより、コロナ禍における新しい講義形態の発展にも繋がる可能性がある。</p> <p>平成29年度中間評価参考意見については、女性教員の比率について、令和2年度には20.3%を達成した事実に加え、さらに、上位職にある女性教員の増加をも実現している。大阪大学の本事業による特色ある成果として、他大学にも大いに参考になるものと評価できる。</p> <p>一方で、世界通塾の計画達成に向けて、学生の語学力については、伸びてはいるものの厳しい現状を踏まえて、事業終了時点で目標値を達成するため、対策を講じる必要がある。また、海外への留学生数は少なく、海外からの留学生数との不均衡を改善する必要がある。</p> <p>財政支援期間終了後を見据えた自走化については、海外からのライセンス収入がこの数年間で数倍に増額していることから、この成果を更に発展させることが望まれる。</p>

大学等名

大阪大学

⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】

超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業
中間評価結果

代表校名 大阪大学

取組名称 独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム (DS⁴)

超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業委員会による評価

[総括評価]

B：当初目的を達成するためには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。

[コメント]

社会人も含めた多様なニーズに応えるため、7コースからなるDSデータ科学を開講し、DSインターンシップ、実証型研究法、データ科学 PBL（合宿形式）、データ科学各論（実務家講義）、教理特論（グループワーク、ディスカッション）など多様な形式で実践型の教育プログラムが実施されていることは評価できる。

一方、自己評価やアドバイザーボードを設置しているにも関わらず、問題点の原因を究明し、できる限りの工夫を凝らした上でそれを克服あるいは改善に繋げようとする方策が確認できなかった。現状のままでは、当初計画した事業内容の達成は難しく、より一層オンラインをうまく活用するなど、教育機会の提供を増やす取組が求められる。特に、社会人受講者が少なく、受け入れ企業とも協議・協力し、受講者を増やすための改善策を講じる必要がある。

また、企業間でインターンシップの内容に差があるため、アドバイザーボードにおいて、例えば、インターンシップに関する情報交換や、学生からの意見の紹介などを通じて、内容の平準化と質の向上を検討することや、教員養成、他大学へのプログラム展開について、事業の中核拠点として、具体的に取り組みを進めることが期待される。

以上を踏まえ、他大学や学内の他部局の教員・事務局とも連携し、事業の更なる推進を図ること。

大学等名	大阪大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>○スーパーグローバル大学創成支援事業 GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」(H26年度～R5年度) 様々なグローバル化の下、「知の統合」を多彩かつ高次元で実現できる教育環境を新たに創出することで、グローバル社会において活躍する人材を輩出することを目指す。本構想では、(1)大学院教育の抜本的改革と異分野統合の推進、(2)優秀なグローバル人材の確保と、教育実施体制の世界標準化、(3)機能強化を伴う横断的組織体制の確立、(4)教育研究の戦略的な国際展開、に取り組む。</p>	
<p>○研究大学強化促進費補助金 研究大学強化促進事業(H25年度～R4年度) 本学が強みをもつ免疫学、臨床医学、生物学・生化学、量子力学などの分野のさらなる強化、新たな異分野融合研究の開拓のために、外国の研究者を招へいし本学の研究者と合同で国際ジョイントラボを設置、また国際合同会議を開催するなどの様々な取組みを実施している。</p>	
<p>○Society5.0に対応した高度技術人材育成事業未来価値創造人材育成プログラム 独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム(DS4)(H30年度～R4年度) 「独り立ちデータサイエンティスト人材育成プログラム(DS4)」は、即戦力のデータサイエンティストを養成することを目指します。独り立ちレベルのデータサイエンティストを輩出するため、理論を扱う講義科目に加えて、実践的な少人数の演習・実習・PBLを各履修対象者(大学院生・社会人)に合わせて用意しています。</p>	
<p>○多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン ゲノム世代高度がん専門医療人の養成(H29年度～R3年度) 本事業は関西7大学の連携により、ゲノム医療に基づくがんの診断・治療および緩和ケア・日常生活ケアに関わる人材養成、小児がん・希少がんの専門医療人を教育し、AYA世代～高齢者に至るライフステージのそれぞれの患者ニーズを理解し、患者の視点に立脚して、がん医療の各局面に必要な人材養成を行う。</p>	
<p>○日本学術振興会国際交流事業 研究拠点形成事業(A型) ・自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成 ・蛋白質凝集の先端研究ネットワーク形成 ・ヒト免疫学を推進する先端研究ネットワーク形成 ・データ駆動プラズマ科学国際共同研究拠点形成 先端的・国際的な研究課題につき、世界水準の研究交流拠点構築及び次世代の若手研究者の育成を目指す。</p>	
<p>研究拠点形成事業(B型) ・アジアにおけるレーザー宇宙物理学国際研究教育拠点 ・環境・エネルギーデバイス界面の解明・物質デザインと実証実験 アジア・アフリカ地域における諸問題解決に資する研究課題について、本学が主導的役割を果たし、相手国機関との持続的な協力関係を確立することにより、当該分野におけるアジア・アフリカ地域の中核的研究交流拠点を構築すること、また、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目指す。</p>	
<p>日中韓フォーサイト事業 ・有機-無機ナノハイブリッドプラットフォームを用いた腫瘍の精密イメージングと治療 ・核子から核物質にいたる量子多体系の織りなす極限条件下の多彩な核構造 日本・中国・韓国の研究機関が連携して、世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目指す。</p>	

○日本学生支援機構 令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）

双方向協定型 3件

短期研修・研究型 16件（協定派遣8件、協定受入8件）

重点政策枠 2件（協定派遣1件、協定受入1件）

派遣先校での学習分野や、派遣・受入れ学生の属性等において、本事業の申請内容とは内容が異なるものである。

（大学名： 大阪大学 ）（タイプ A①:CA プラス ）